

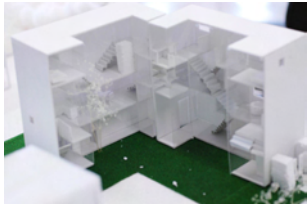
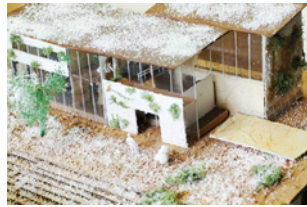
近畿大学工学部建築学科 作品集

Department of Architecture, Faculty of Engineering, Kinki University

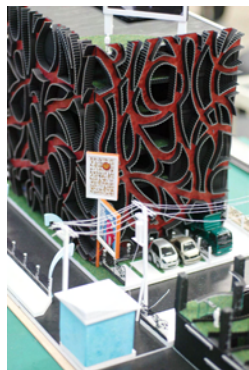
CONTENTS

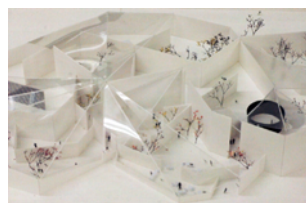
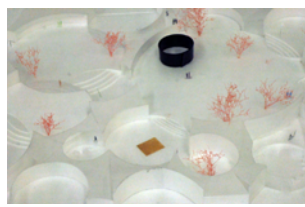
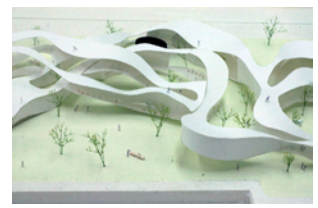
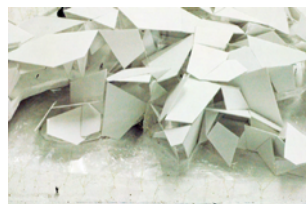
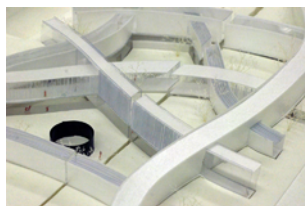
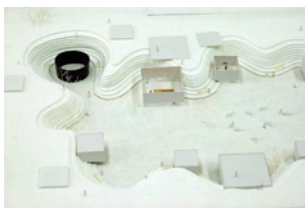
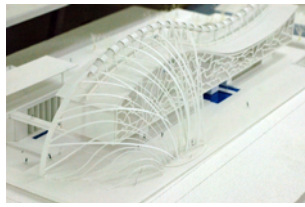
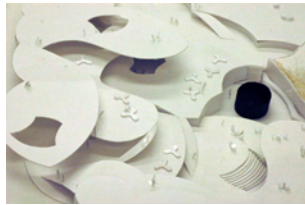
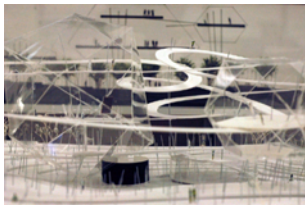
1	2年後期 建築設計演習Ⅰ	...	2
	01 「将来の自邸」		
	02 「事務所ビル」		
2	3年前期 建築設計演習Ⅱ	...	3
	01 「現代美術のための美術館」		
	02 「集合住宅」		
3	3年後期 建築設計演習Ⅲ	...	5
	01 「小学校」		
	02 「複合施設」		
	03 「集中演習 with エジンバラ芸術大学 & タマサート大学」		
4	卒業設計	...	9
	01 風景の脚本	岡田 雄仁	
	02 距離と形	兼森 洋也	
	03 キンダイ イキタイ	小池 直也	
	04 よりみち	石野田大地	
	05 Active Space	渡邊 大修	
	06 Collage	白石 翔一	
	07 積層回路 ー都市における新たなネットワークー	上内 陽介	
	08 道は「にわ」、「にわ」は家 ー高屋地区・学生のための住まいの計画ー	為岡 晃司	
	09 くつついたり、はんれたり。。 ー筆書きの壁による学校空間の提案ー	保田 恵梨	
	10 壁に棲まう	青木 史晃	
	11 マチカグ ー中と外の間の生活ー	小谷 至己	
	12 会話するハコ ー感覚で選択する集合住宅ー	高橋翔太郎	
	13 島の中のみんなの居場所 ー光と風、人がつくる公民館ー	永田かすみ	
	14 ちいさなむらの おおきながっこう ー余白によるこどもと地域の関係性ー	中平 祐子	
	15 みんなのいえ ー共同生活のなかで育てる自分の居場所ー	東 友美	
	16 せいかつしあう ー生活がにじみ出る公共空間をもつ集合住宅ー	豊後亜梨紗	
	17 えきがかわる。ひとがかわる。 ー駅と人の新しい関係ー	吉田 早織	
	18 尾道ジャンクション	賀川 陽介	
	19 ミナトマチ ー港における公共性の再考計画ー	坂下 輝幸	
	20 アタシの世界 ー服からできる空間ー	高原 由衣	
	21 壁に沿って ー小学校跡地の再開発ー	高見 貴宏	
	22 山住群築 ー郊外における森の中の住宅群ー	野島 将平	
	23 こどもたちの長い橋 ー色が生み出す幼稚園の提案ー	森原 直樹	
	24 みちのむこう ー駅前商住空間の提案ー	湯井 美江	
5	修士設計	...	35
	01 消えた都市の輪郭	城納 剛	
	02 レベル差の積層	原田 聖	
	03 呼吸する建築	古田 靖幸	
	04 密接群集	柳川 雄太	
6	設計コンペ	...	45

将来の自邸



事務所ビル

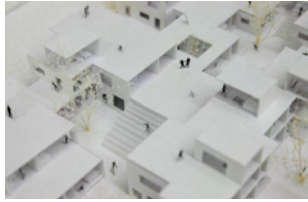
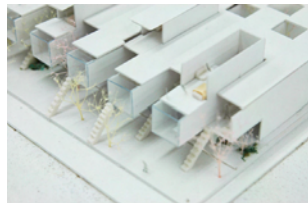




特別講師 建築家 平田晃久先生



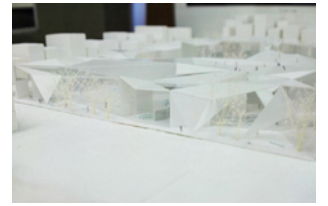
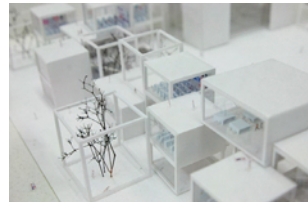
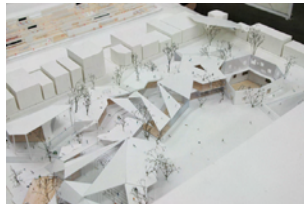
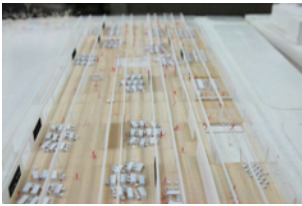
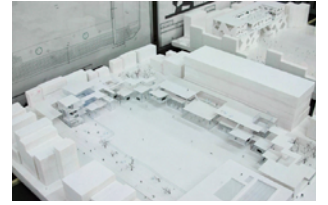
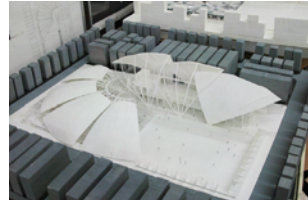
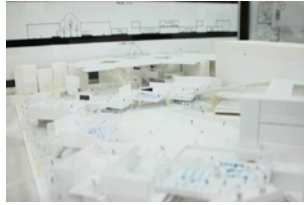
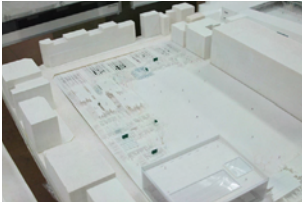
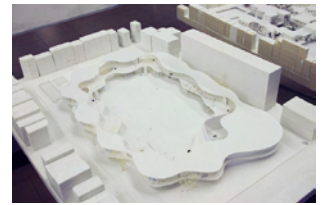
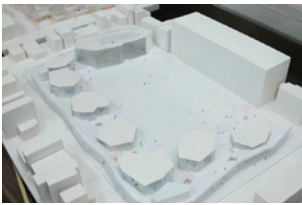
集合住宅



特別講師 建築家 木下庸子先生



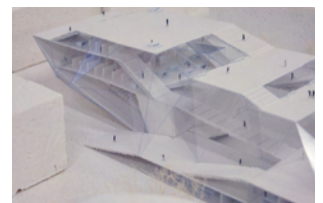
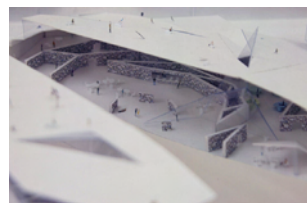
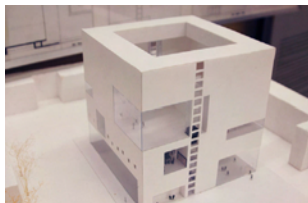
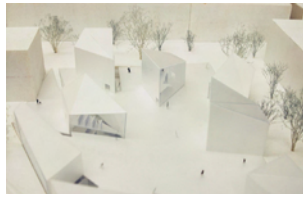
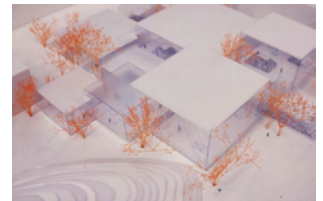
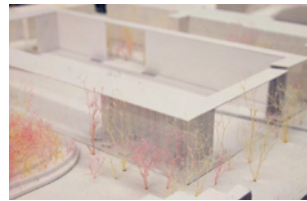
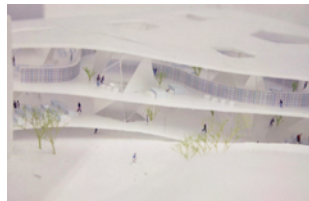
小学校



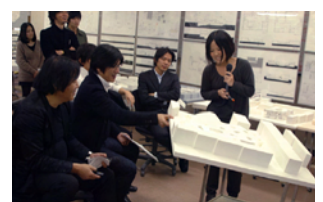
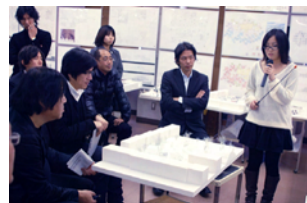
特別講師 建築家 工藤和美先生・池田昌弘先生



複合施設



特別講師 建築家 米田明先生







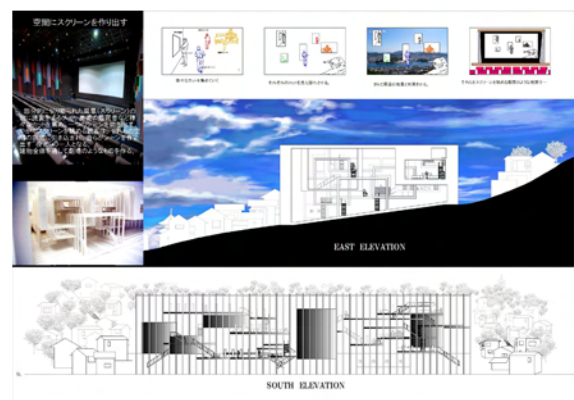
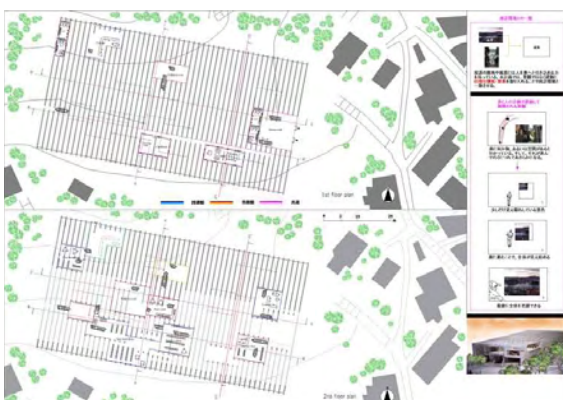
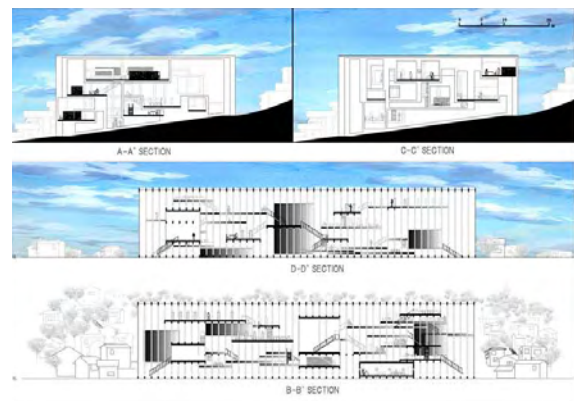
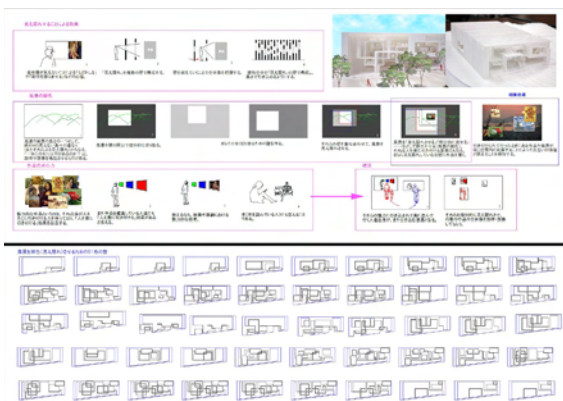
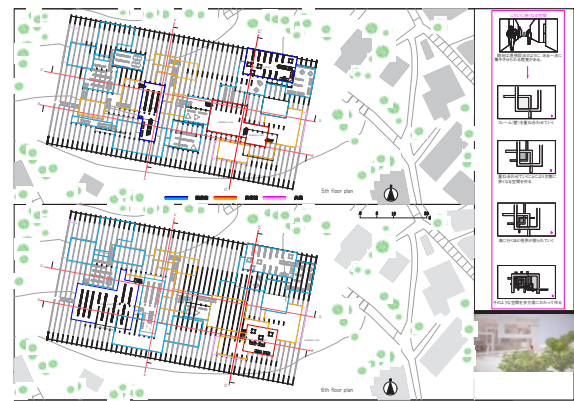
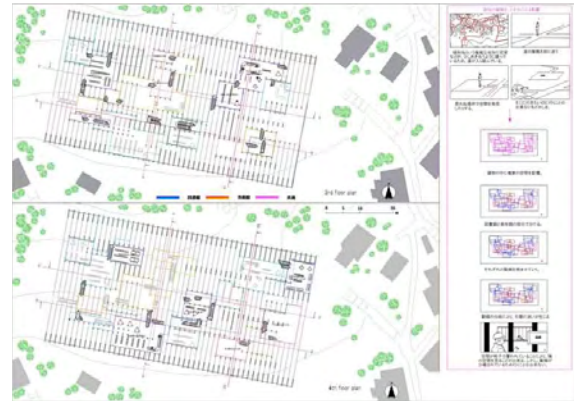
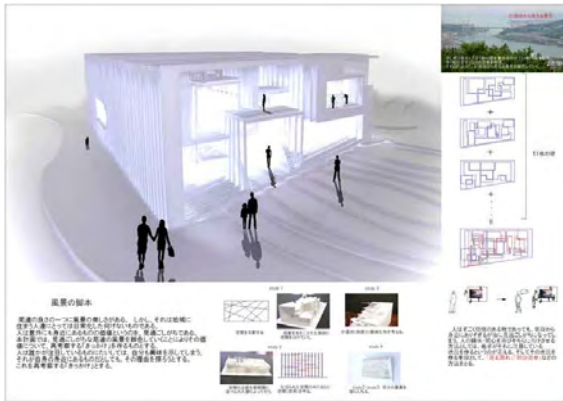
01. 風景の脚本

岡田 雄仁
OKADA Katsuhito

空間創造研究室

広島県尾道市に図書館や美術館を複合した文化施設を計画する。尾道の風景や計画地周辺にある路地は「一体この先には何かあるのか?」と、期待や想像を掻き立てるものであった。本計画では、景観ではなく建物に同様な機能や要素を取り入れていく

ことで、周辺環境と一致させる。同時に、建物から見える風景にも同じような効果を出していくことで演出する。脚色された風景を、空間上に映し出すスクリーンのようなもの。





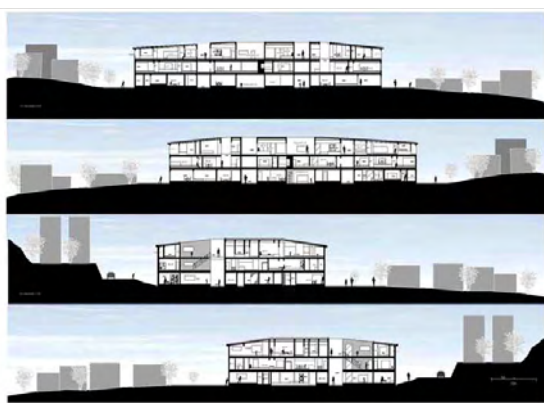
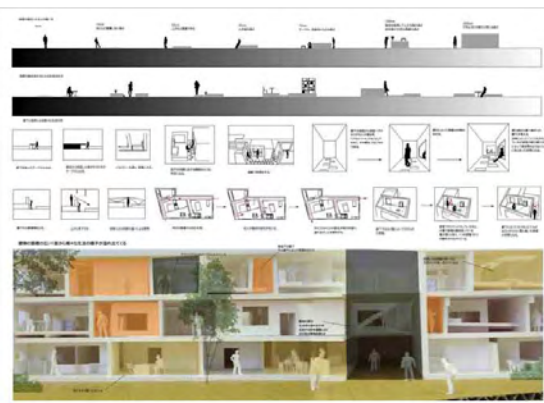
02. 距離と形

兼森 洋也
KANEMORI Hiroya
空間創造研究室

鞆の浦には寺や神社など歴史的産物が数多くあり、それらは町中に点在している。その中で人々は過去から現在まで生活し続けている。昔ながらの建物や町とともに順応しながら生活していることが鞆の浦の歴史的風景をよりいっそう良くしていると考え

える。

本計画では、昔の建物でよく使われている「路地」や「廊下」や「通り庭」というものを取り入れ、外部からの新しい集合住宅の住生活を提案する。





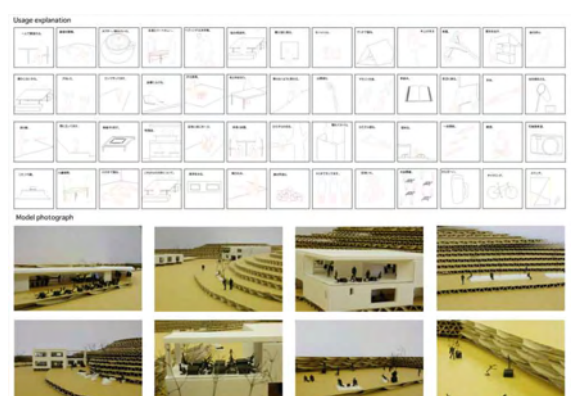
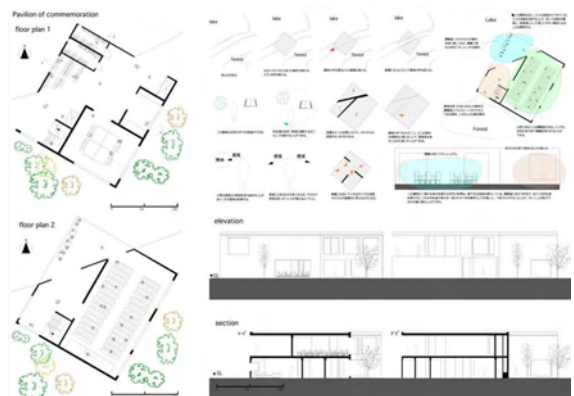
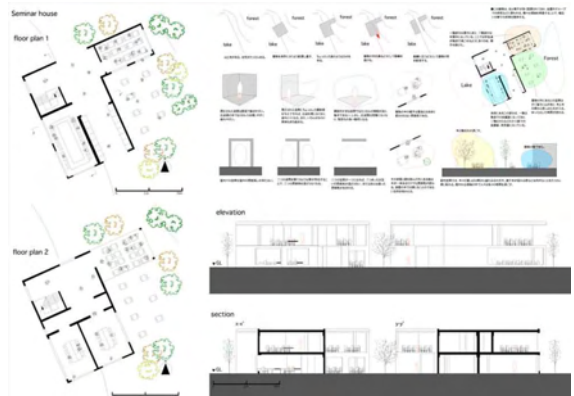
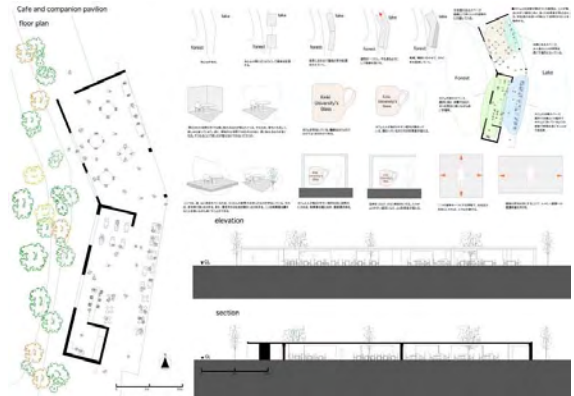
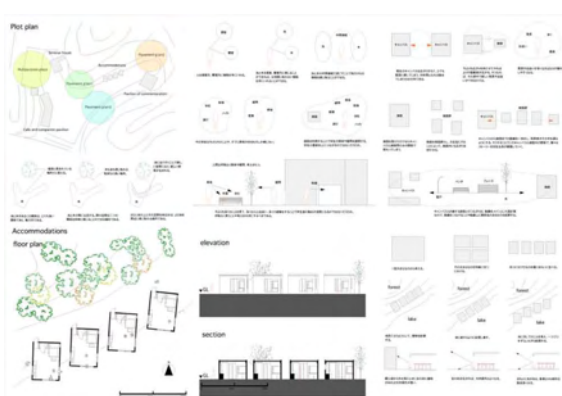
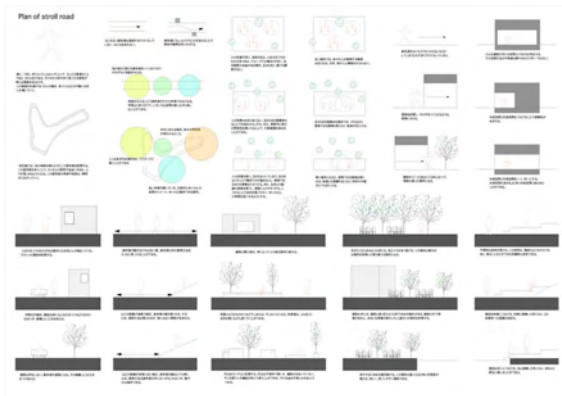
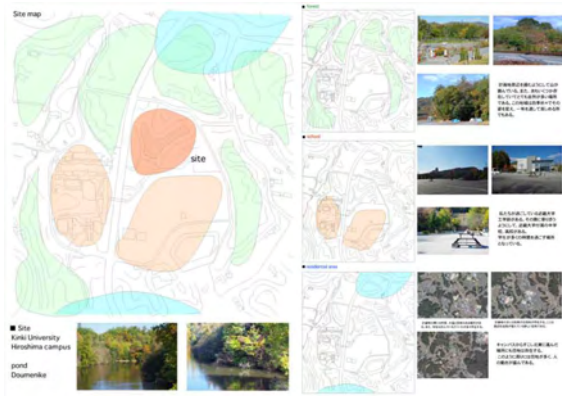
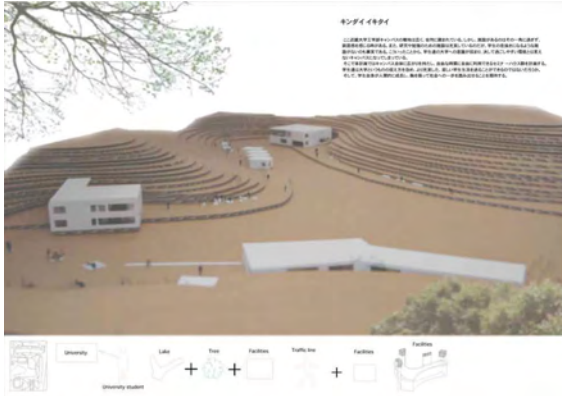
03. キンダイ イキタイ

小池 直也
KOIKE Naoya

空間創造研究室

ここ近畿大学工学部キャンパスの敷地は広く、自然に囲まれている。しかし、施設があるのはその一角に過ぎず、窮屈感を感じる時がある。また、研究や勉強のための施設は充実しているのだが、学生の息抜きになるような施設がないのも事実である。

そこで本計画ではキャンパス自体に広がりを持たし、自由な時間に自由に利用できるセミナーハウス群を計画する。学生達は大学というものの捉え方を改め、より充実した、楽しい学生生活を送ることができるのではないだろうか。





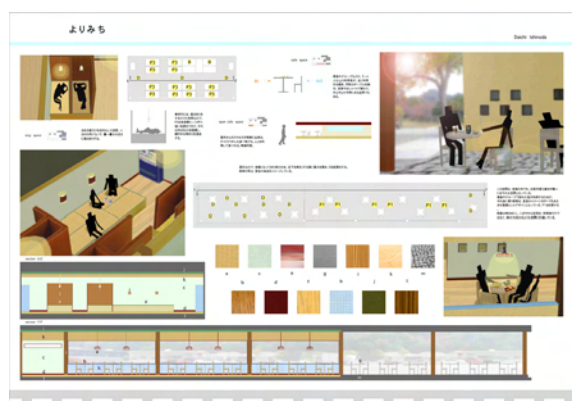
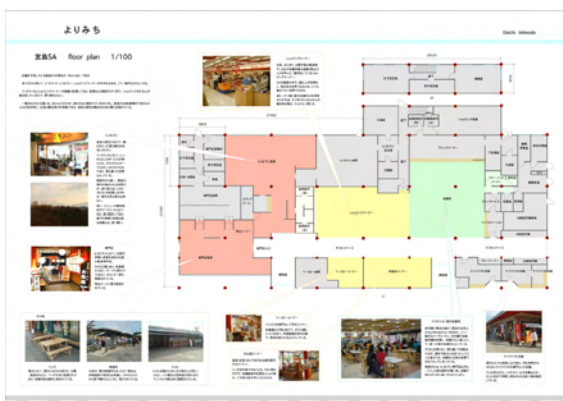
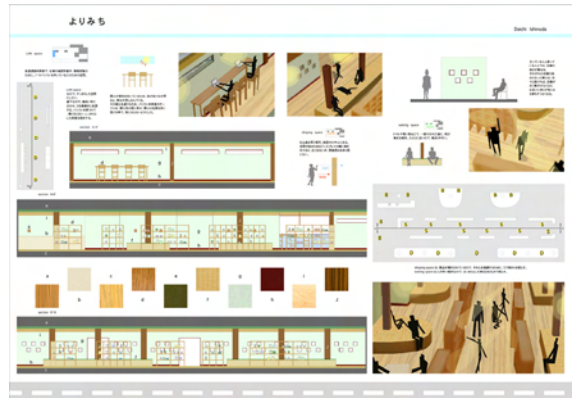
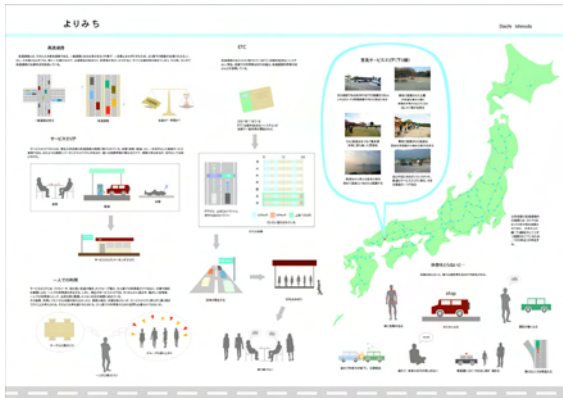
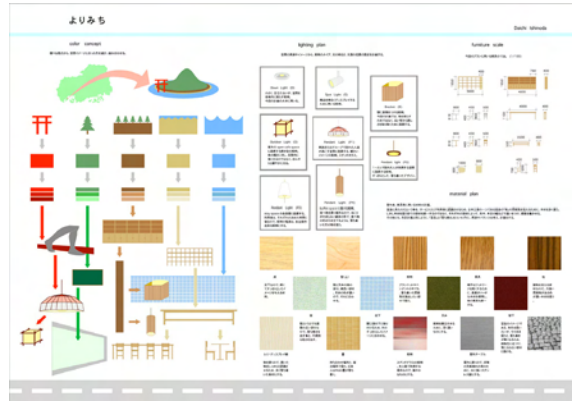
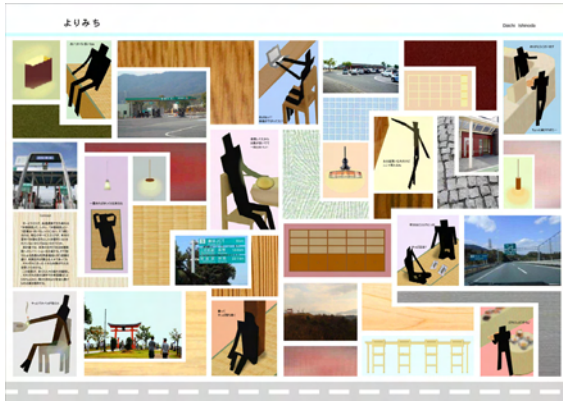
04. よりみち

日本インテリア学会中国・四国支部長賞

石野田 大地
ISHINODA Daichi
空間創造研究室

本計画では、現存するサービスエリア・パーキングエリアを、本来の目的である休憩所としての機能に重きを置き、利用者の車での移動をより快適にする事を目的とした、休憩施設へのリノベーションである。その結果、気軽にこのサービスエリアに

寄り有意義な「よりみち」をすることで、残りの旅を当たり前のように、楽しく安全に続けられる事を期待する。



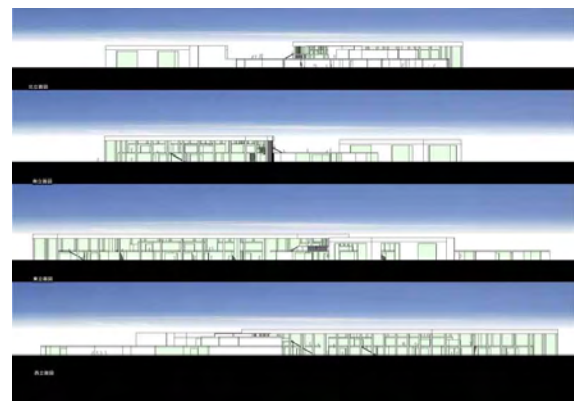
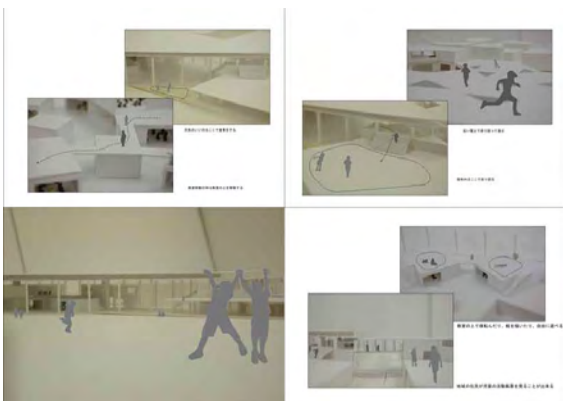
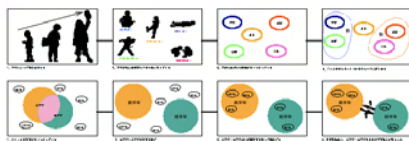
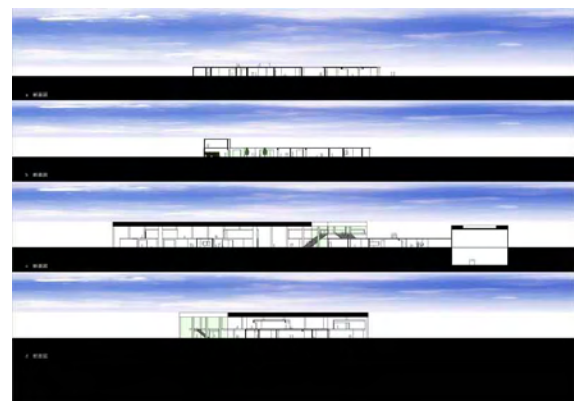
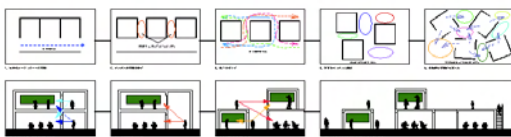
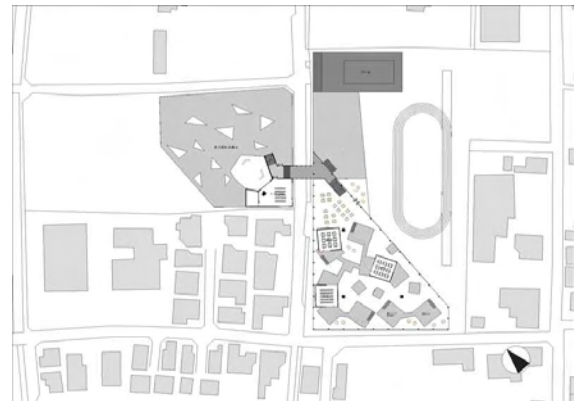
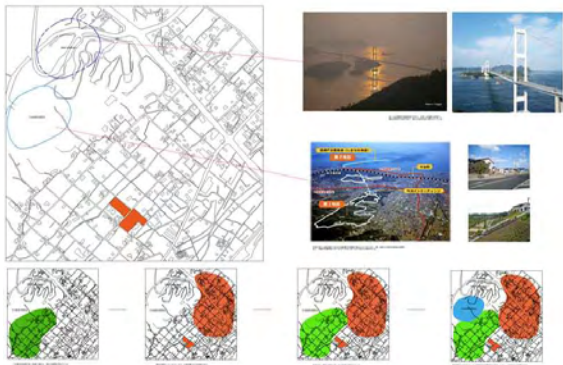


05. Active Space

渡邊 大修
WATANABE Hironobu
建築計画研究室

1970年代からオープンスクールが導入され始めてから様々なプランの小学校が誕生したが、近年『小学校を立てる』＝『オープンスペースを設ける』という考え方がなってしまう、本来のオープンスペースの目的を失ってしまい、ただの広い空間と

なっているように思う。近年、教育方針が検討し直されてきているが、それに伴い学校空間を、もう一度考え直し、本当に必要な空間、動線だけを残し、それらの要素に新しい空間を加えることで、活気のある小学校空間を目指す。



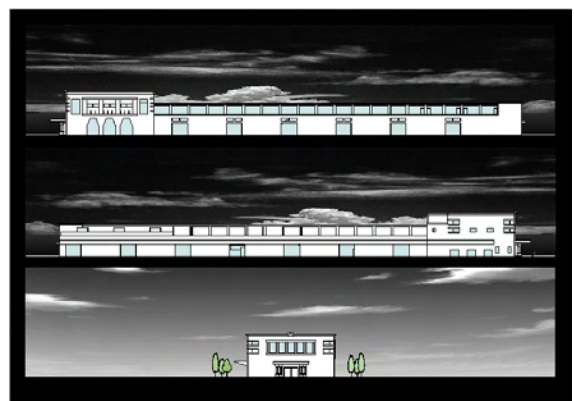
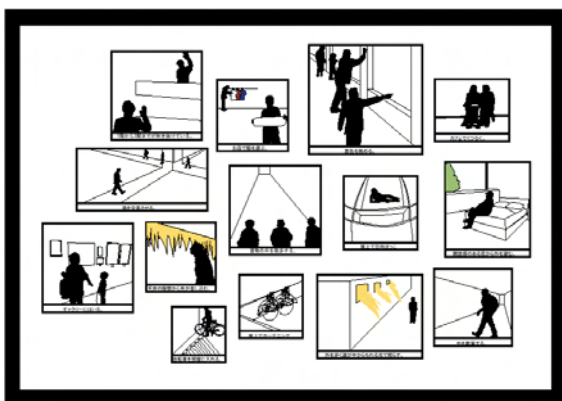
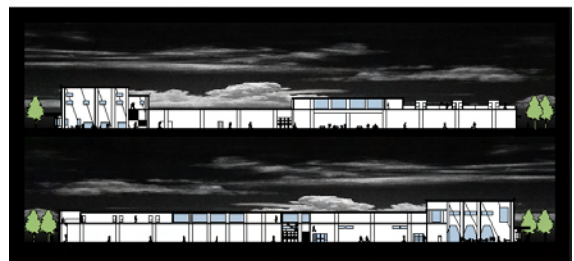
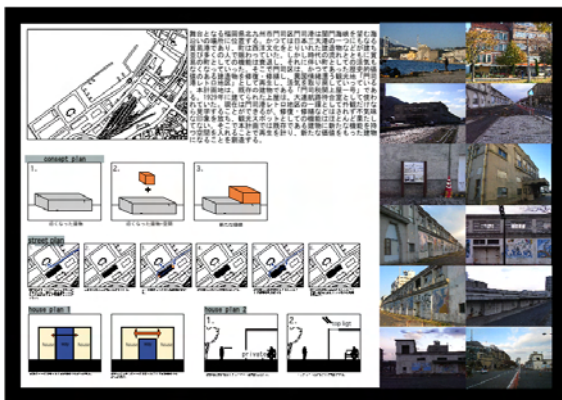
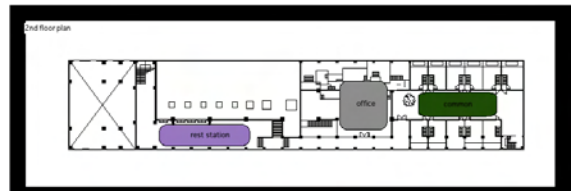
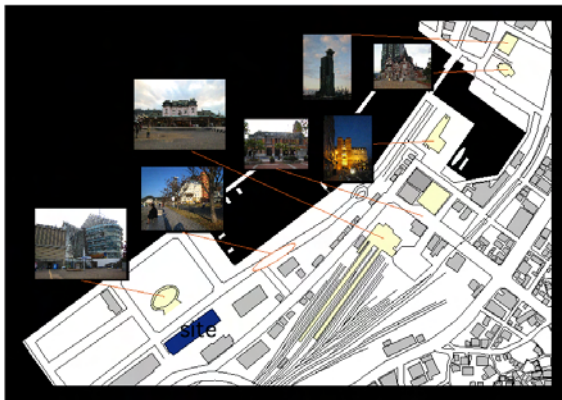
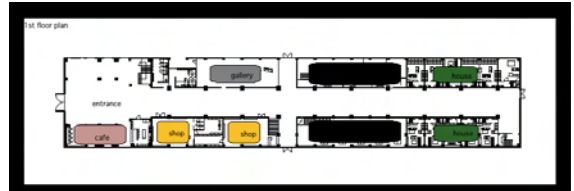


06. Collage

白石 翔一
SHIRAISHI Shoichi
建築計画研究室

本計画では、旧くなった建築物の再生計画を提案する。旧くなった建築物は、人々や土地の記憶を残す歴史的な価値があるのに対し、老朽化や都市の高層高密度化の進行により、その重要性が考えられることなく失われていく一方である。そこで、旧くなっ

た建築物に新たな空間を挿入することで起こる新旧の対比関係により、新たな魅力や機能を持った建築物になることを目標として計画を進める。





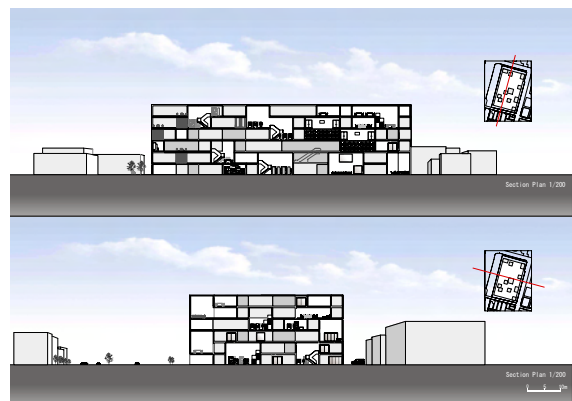
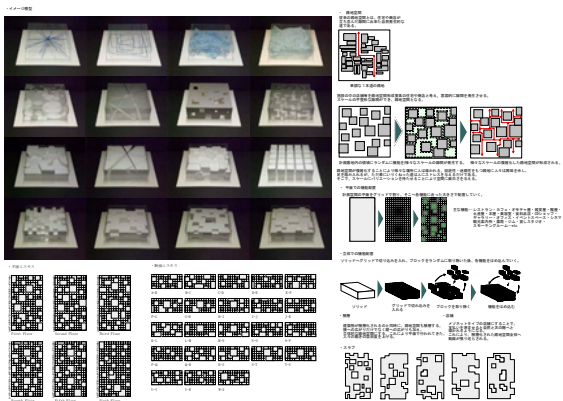
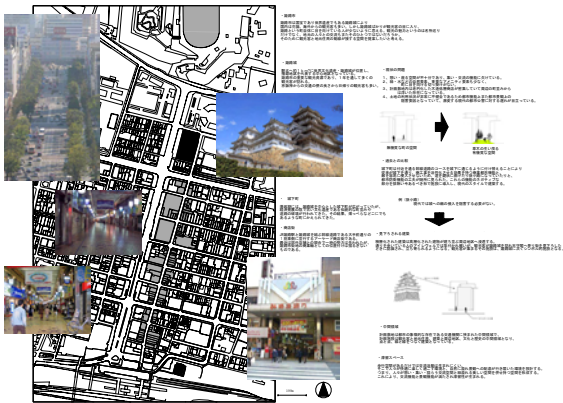
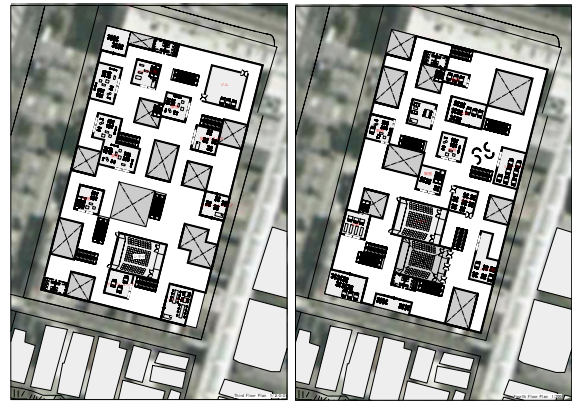
上内 陽介
UENAI Yosuke

環境設計研究室

07. 積層回路 ~都市における新たなネットワーク~

観光客と地元住民に対し交流活動の場を設け、観光客にとっては新たな観光スポットを提供し、地元住民にとっては新たな地域の魅力を提供する計画である。同時に、施設を通すことで様々な人の動線を周辺地区へ誘導することにより、施設の中だけでな

く周辺地区全体へ交流活動のキッカケを排出する。さまざまなものが高速化され点から点へ瞬時に移動し、人々の交流さえも希薄化している現代社会にとって本当に必要なのはこの途中経過の領域なのではないだろうか。



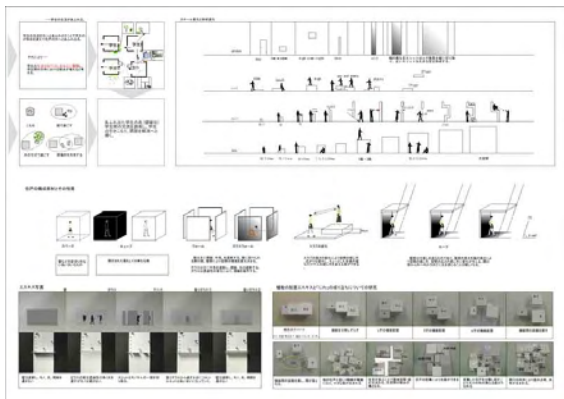
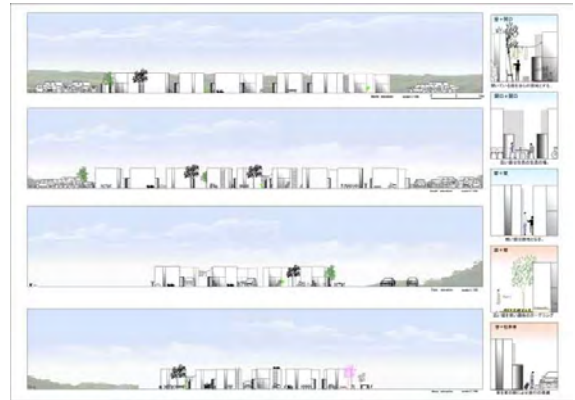
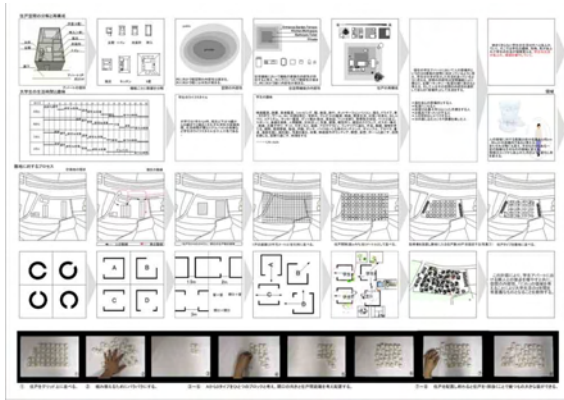


為岡 晃司
TAMEOKA Koji
環境設計研究室

08. 道は「にわ」、「にわ」は家 ～高屋地区・学生のための住まいの計画～

本計画では近年大学の移転により学生向け賃貸住宅の需要が増加し、多くの賃貸住宅が建てられた。しかし、現在建てられているアパートの多くが同じ箱の横並びで片廊下の建物となっている。それにより学生の閉居、学生間の関わりの希薄化、セキュ

リティの不備といった問題が発生している。そこで学生特有のライフスタイルに着目して、住宅機能における内密性や領域の共有を考え、新たな住空間を創造すると共に学生の居場所を創る。





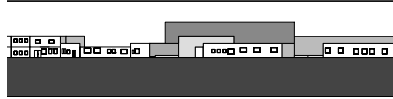
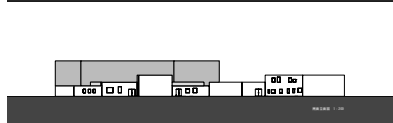
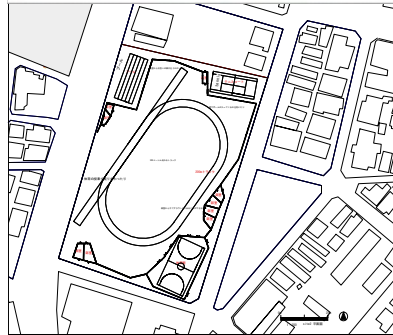
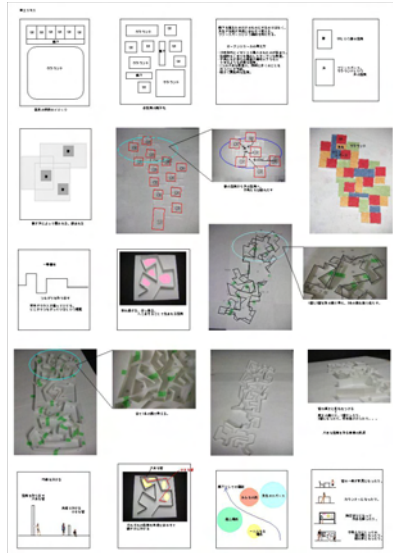
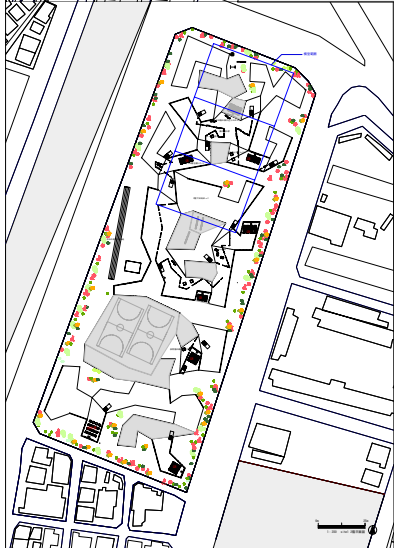
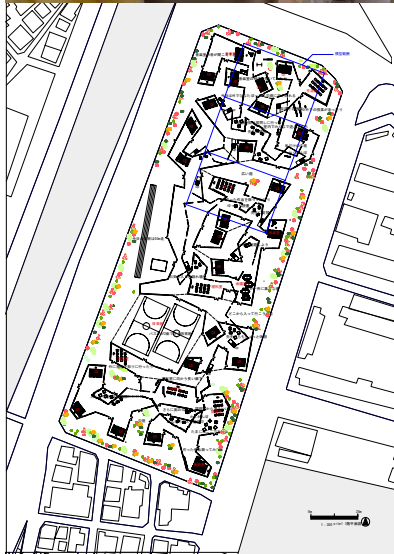
保田 恵梨
YASUDA Eri

環境設計研究室

09. くっついたり、はなれたり。。 ～一筆書きの壁による学校空間の提案～

広島県呉市に存在する、実際に統合された学校を計画地とした小中一貫校の提案である。敷地内を駆け巡る2本の線はすべて一筆で描かれ、壁となり、内と外、内と内、外と外とを区別する。外部のようで内部的な空間。内部のようで外部的な空間。壁の

つながりで子供たちは互いの存在を感じ、意識する。そして壁の構成によって空間に違いが生まれ、多様な空間となる。子供たちの9年間の豊かなものとなることを期待する。





10. 壁に棲まう

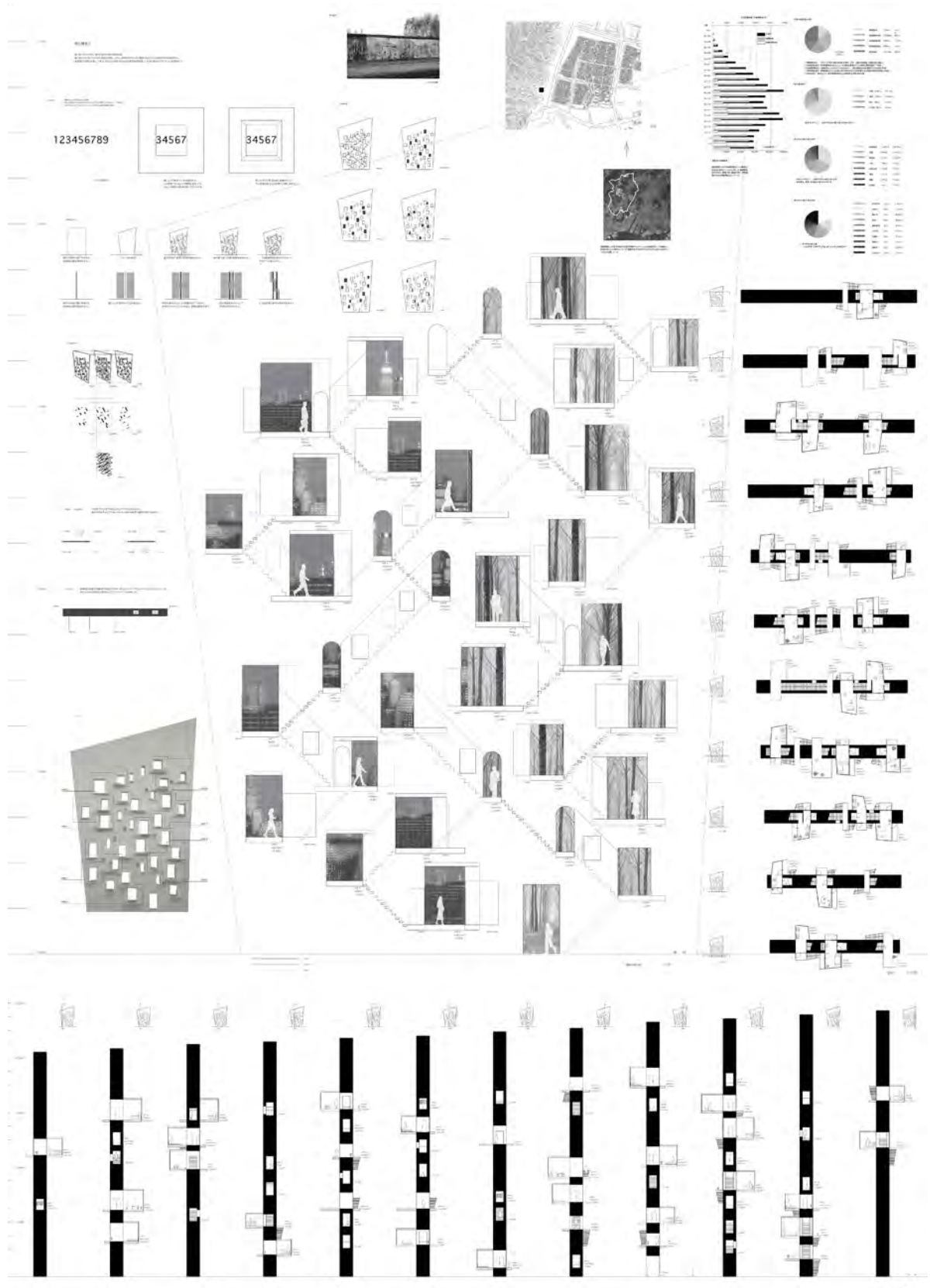
工学会賞 3 席

青木 史晃
AOKI Fumiaki

建築意匠研究室

壁に寄り添って住む。都市と自然の間の大きな壁。壁に囲まれた私たちの住む窮屈な空間。しかし、部屋の窓から見る風景は私たちにある種の憧れを抱かせる。知らず知らずのうちに都市には意識的な壁が発生している。この計画で都市の壁を具現化する。

都市の境目に住まうことで都市と自然というネガティブなものからポジティブなものへとイメージが変化する。本計画では開口を通してそこに住む人々が私たちの住む空間を再認識し、本当の豊かさに気づくことを期待する。





11. マチカグ ~中と外の間の生活~

工学会賞 3席

小谷 至己
KODANI Yoshiki

建築意匠研究室

現代の集合住宅は未だに、閉じた空間が多く、街や都市との関係が薄れてきている。それにより、地方都市の再開発によって建てられた集合住宅もその土地の住民との関係が深いものと言えない。

係の薄いと思われる高層マンションを建て替え、家具を中と外と関係なしに共有するという、新たな生活を計画することで、商店街とその周辺の住宅のあり方を提案する。

本計画では、商店街の建物の中で街と関





12. 会話するハコ ～感覚で選択する集合住宅～

日本建築学会中国支部長賞

高橋 翔太郎
TAKAHASHI Shotaro
建築意匠研究室

人はそれぞれ違い、色んな個性を持っている。

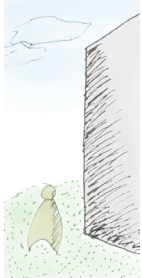
それとともに自分がいたい、好きな空間だっていると思います。

そんな感じる空間のようなものを考えました。

それは、集合住宅のハコが単なる機能の寄せ集めではない、ハコと会話するような建築です。空間を構成する様々な要素から61個の造形ができあがり、庭をかいて生まれる様々な関係を考えながら計画した集合住宅です。



空間を構成する8つの要素



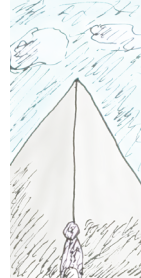
かたい



きれい



せまい



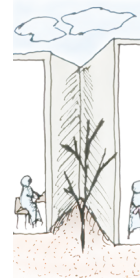
つよい



とおい



ひろい



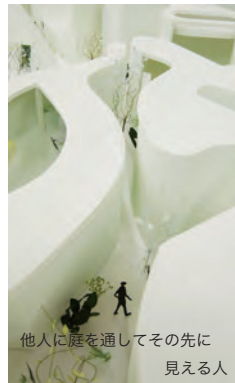
ふかい



やわらかい



ほんの少しの隙間を与えるだけで庭が変わっていく



他人に庭を通してその先に
見える人



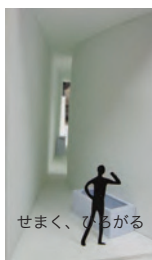
色んな人の庭と絡まる住戸



この先にあるものは..



立つとパブリック、座っていると
プライベートのよう



せまく、ひろがる



へこみによって自分の庭のような状態が生まれる

クルドサックのよ
うな庭が生まれる

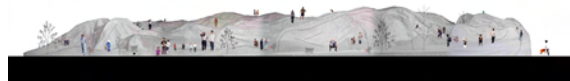


永田 かすみ
NAGATA Kasumi
建築意匠研究室

13. 島の中のみんなの居場所 ～光と風、人がつくる公民館～

高齢社会の今、元気に生活しているお年寄りの方々がたくさんの人たちと関わりながら、いろいろな活動ができる場所を提案する。島にはたくさんのお年寄りや子供たちなど、自分の時間を比較的にとりやすい人たちが多く生活しています。そんな中多

くの人たちが時間をうまく使えていないという現状がある。そこで島の商店街に、お年寄りや子供たちが通う複合施設を提供することで、おじいちゃんや、おばあちゃんたちが元気に生き生きと過ごす場所となることを期待します。



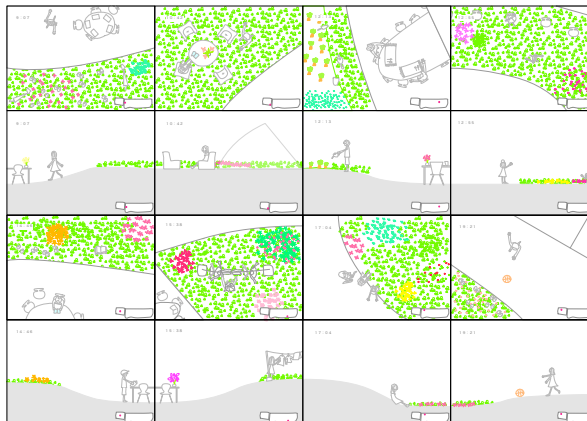
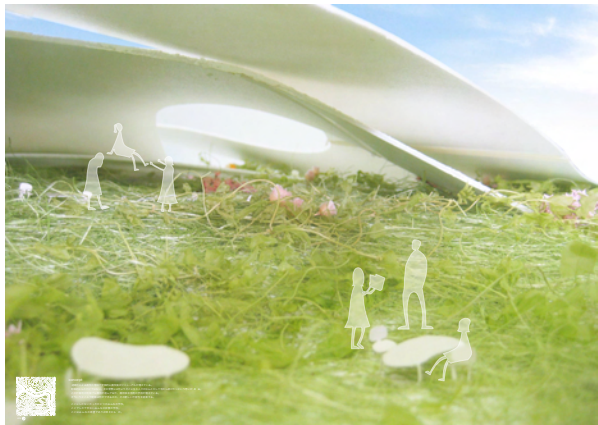


14. ちいさなむらの おおきながっこう ～余白による子どもと地域の関係性～

中平 祐子
NAKAHIRA Yuko
建築歴史研究室

過疎化による廃校の増加で全国的に廃校後のリニューアルが増えている。財政的なものだけではない。その背景には何よりそこに住む人々のなんとかして活かし続けたいという想いがある。この計画地の地域でも廃校が進んでお

り、廃校後未活用の学校が増えている。そういうところで建築は何ができるのか、その新しい可能性を提案する。





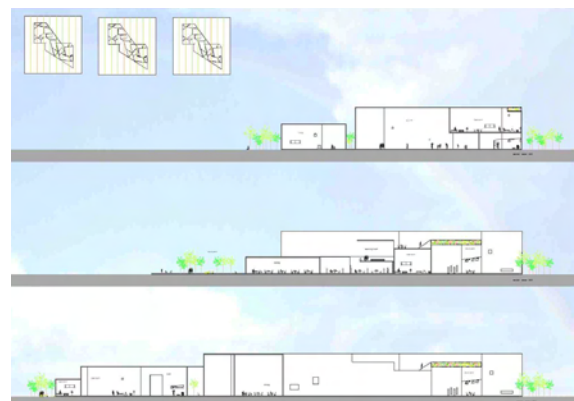
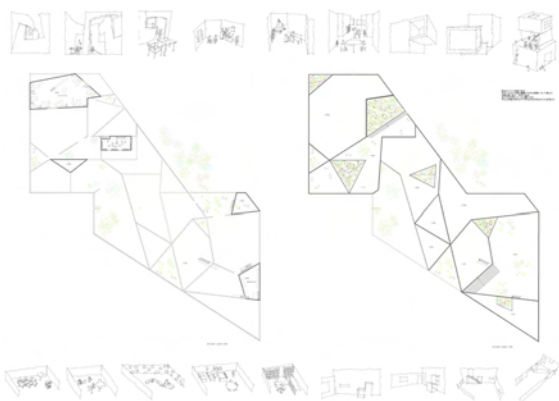
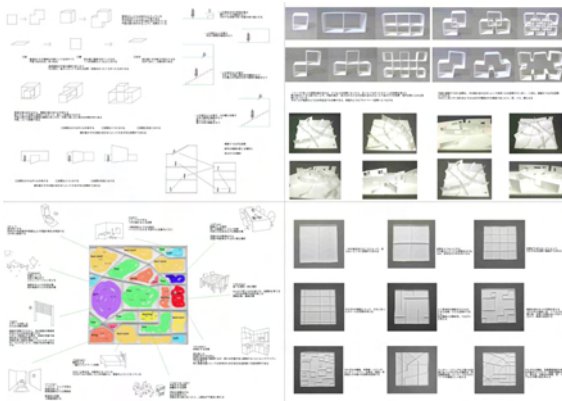
東 友美
HIGASHI Tomomi
建築意匠研究室

15. みんなのいえ ～共同生活のなかで育てる自分の居場所～

本計画によって児童養護施設で生活する児童が、より豊かにのびのびと成長できる空間、地域社会にひらいた空間であり、児童がより家庭的な雰囲気的生活体験ができる空間を提案する。

建物自体の空間だけでなく、さらに計画

地とその周辺の住宅地との融合を計った空間づくりを提案する。成長にあたって大切な児童期にいろいろなものに興味を持ち、頭を働かせ、からだを動かすことを誘発し、自立の支援となる体験がよりよく行える空間を提案する。





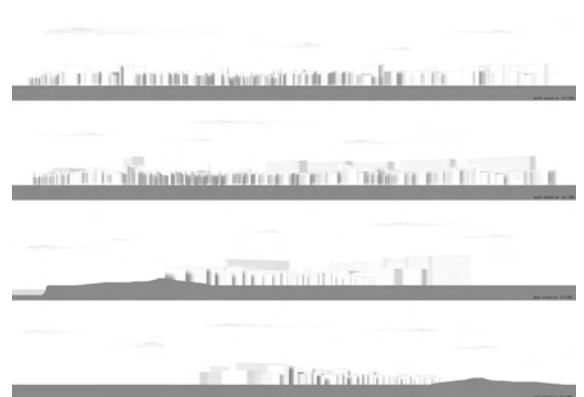
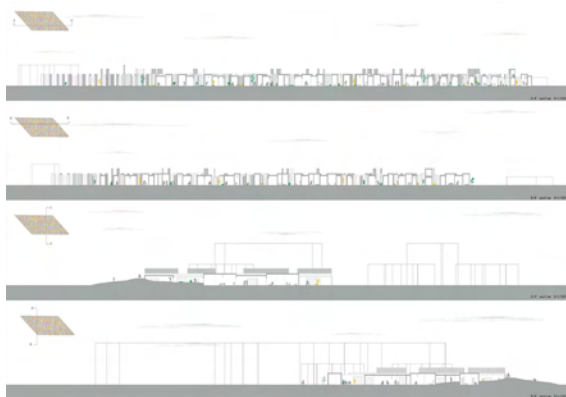
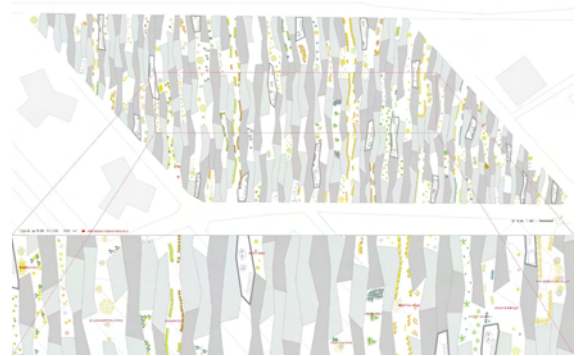
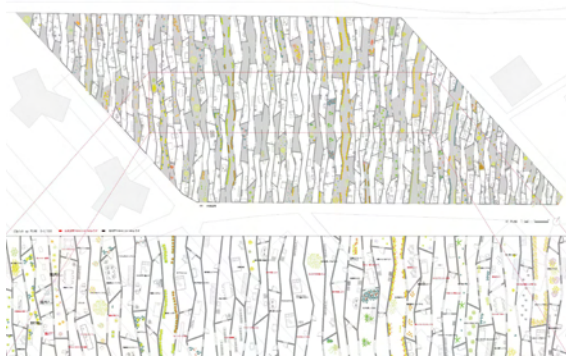
16. せいかつしあう ～生活がにじみ出る公共空間をもつ集合住宅～

工学会賞 2 席

豊後 亜梨紗
BUNGO Arisa
建築意匠研究室

集合住宅における生活を再考察する。細分化された住戸と、住戸と隣り合うパブリックスペースによって人々の生活の一部が他人と共有されていく提案である。小さな住戸で生活する。その生活の一部を隣人や地域の人々と共有する。それぞれの行動

が隣り合う空間。点在された公共空間によるアクティブな動線。住民と地域の人々がつくる新たな生活の一面が生まれることを期待する。





吉田 早織
YOSHIDA Saori

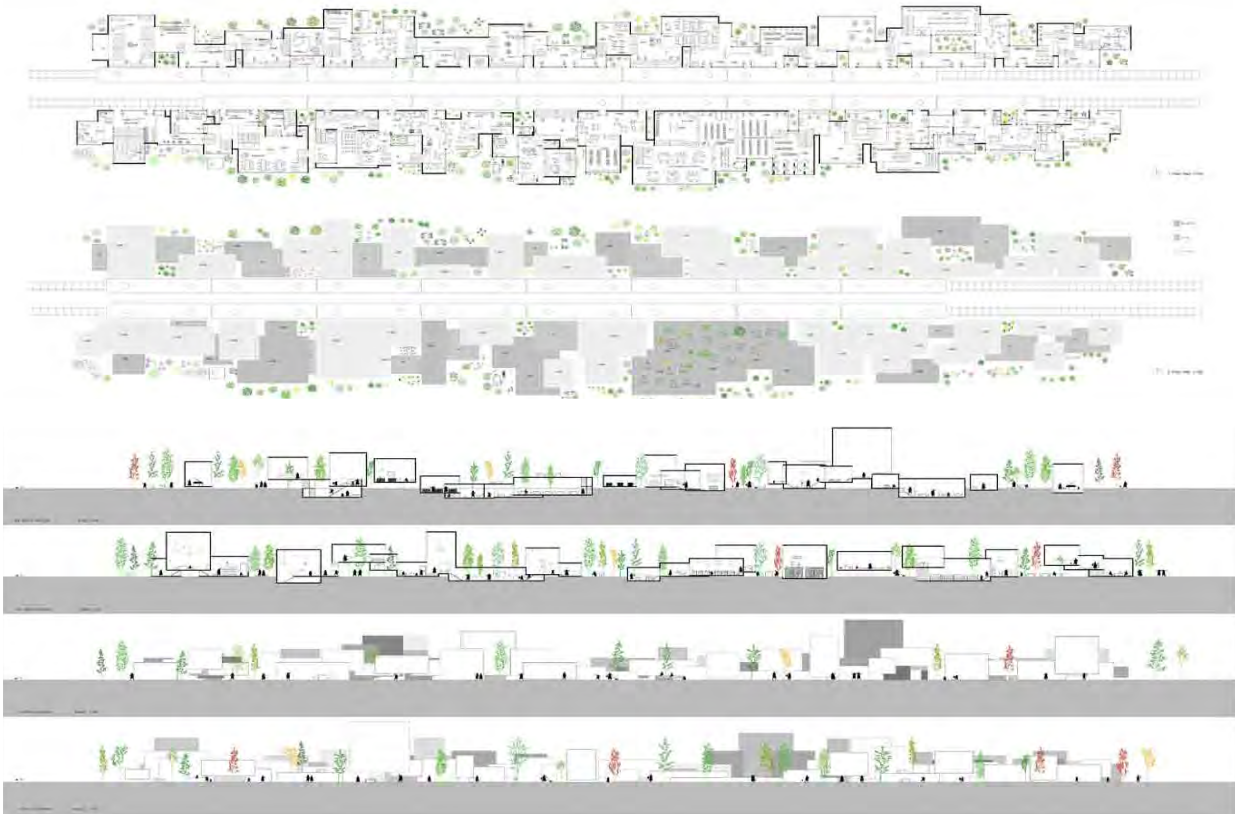
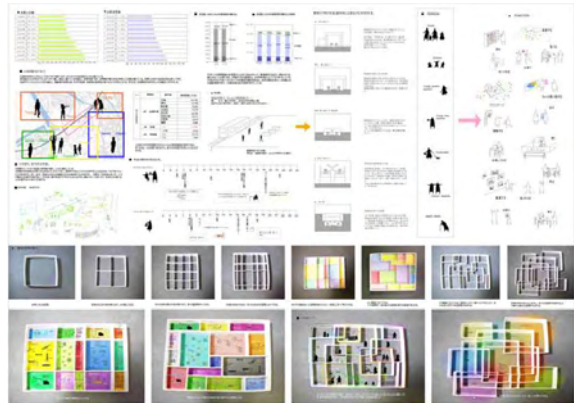
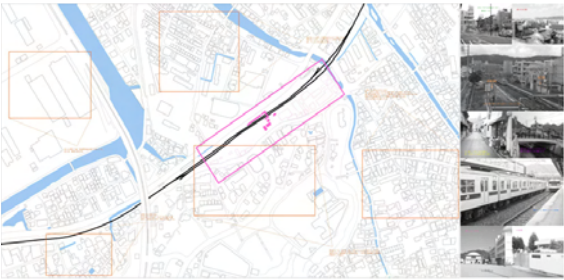
建築意匠研究室

17. えきがかわる。ひとがかわる。 ～駅と人の新しい関係～

工学会賞 1 席

従来の駅とは異なった新しい形の駅を提案する。従来の駅は、電車を待つだけの空間であり、単なる「通過の場所」にしかすぎなかった。そこに図書やギャラリー、商業施設などの機能をもった複合施設を組み込み、また、充実した駅のホームの空間を

つくる。この計画により、駅や駅付近がより発展し、駅が、子供から高齢者の幅広い年齢の人たちが楽しい時間を過ごせるような、市民一人ひとりが主人公になれるひろばを提案する。





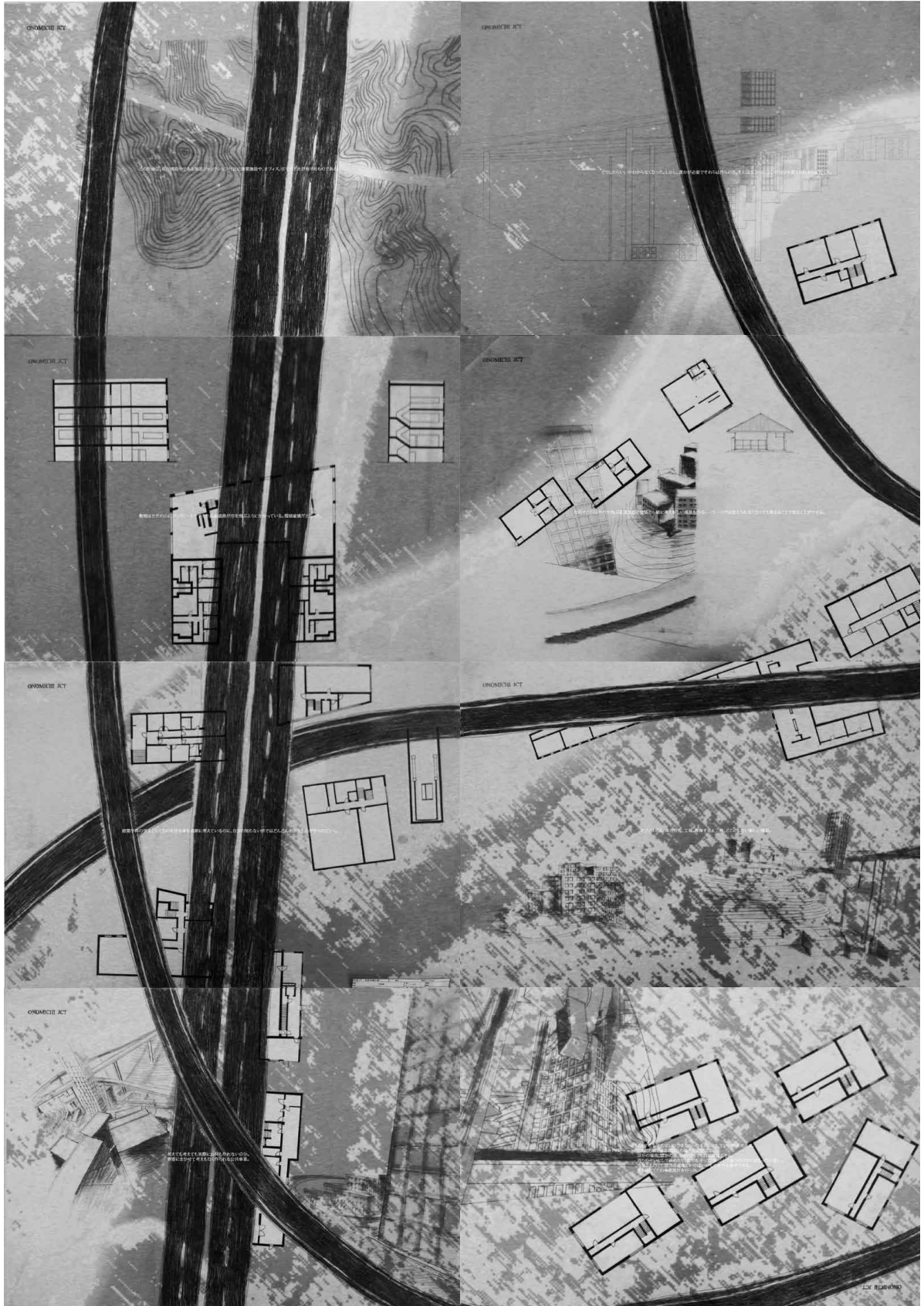
18. 尾道ジャンクション

賀川 陽介
KAGAWA Yosuke

建築歴史研究室

建築学科の学生としてもものを作る事を真剣に考えているのに、自分の知らない所ではどんどん余計なものが作られる。考えても実際には何も作れない自分。需要にまかせて考えもなく作られる公共事業。どうしたらいいかわからなくなった。しかし、誰

が必要でそれらは作られる。高速道路を建築と一緒に考え新しい風景を作る。周りのせいにして諦めたり、文句を言って「負」として扱うだけなのはもったいない。今あるものとの関係を考えていけばいいものを作る事ができると考える。





19. ミナトマチ ～港における公共性の再考計画～

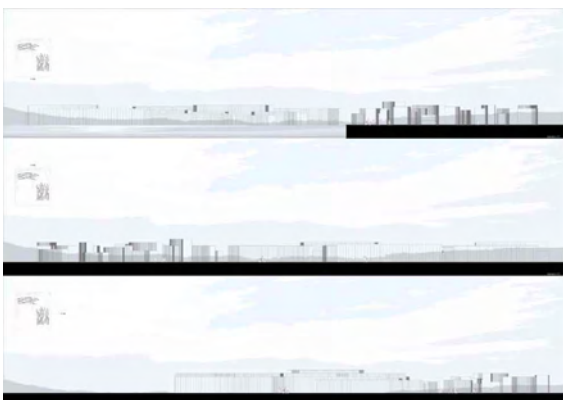
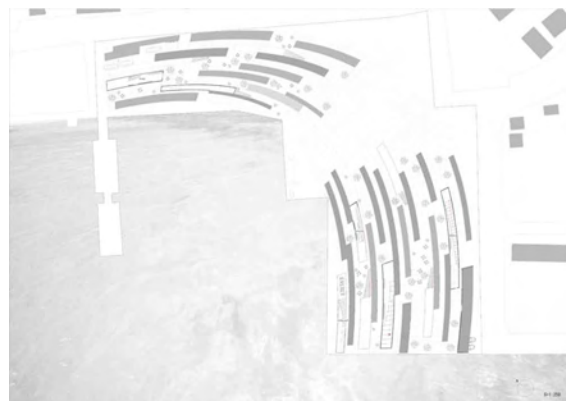
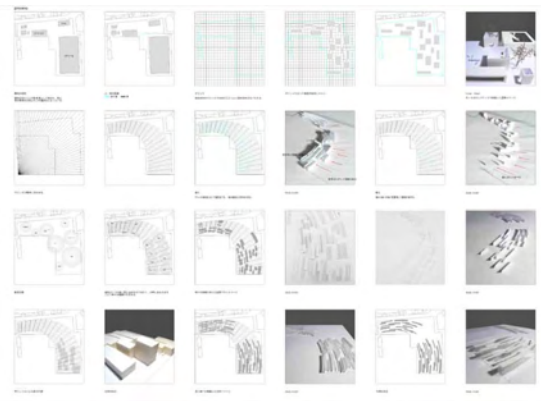
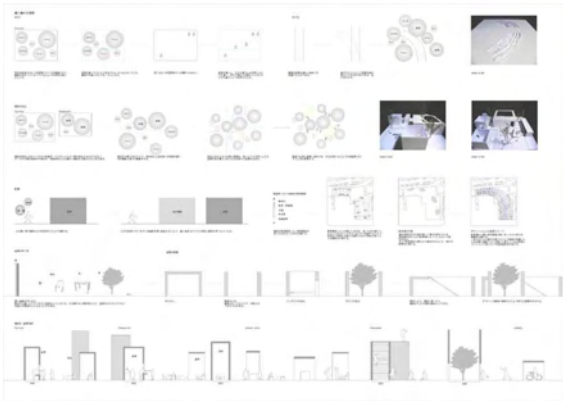
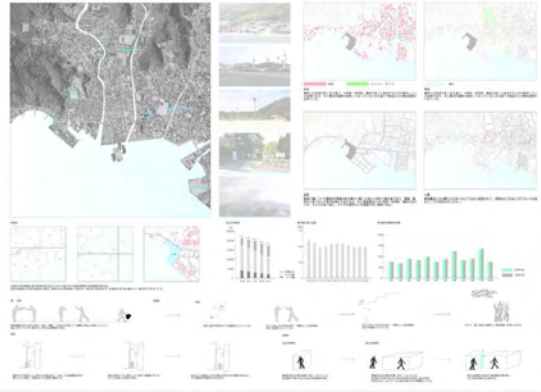
坂下 輝幸

SAKASHITA Teruyuki

建築歴史研究室

従来の港空間は利用者の通過点に過ぎず、敷地の大半が駐車場として使用され、現在港では船を待たず、出港直前に来て船に乗るという一連の流れで成り立っているため閑散とした場所となっている。そこに様々な機能を組み込み、路地のよう

な日常が溢れ出すような空間をすることで、今まで通過点でしかなかった港空間を港利用者だけの場ではなく、地域住民に対しても開かれた場所となるように再計画する。





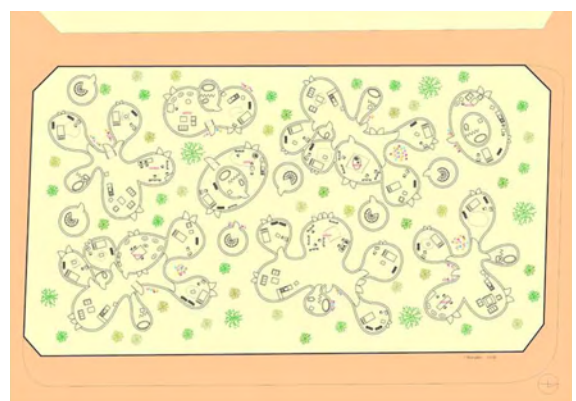
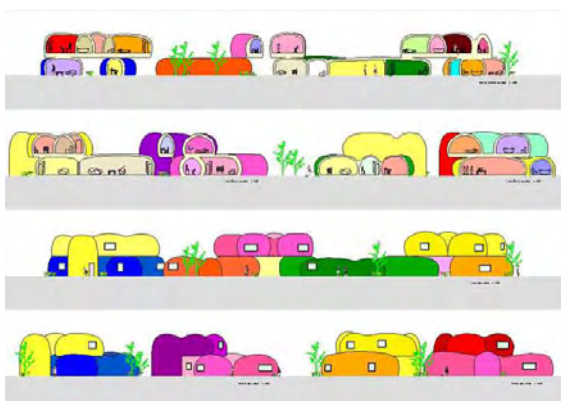
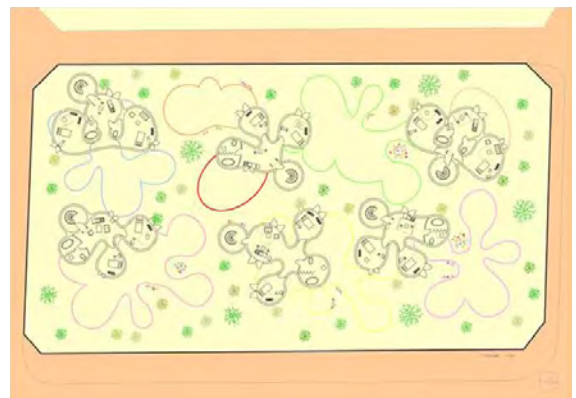
20. アタシの世界 ～服からできる空間～

高原 由衣
TAKAHARA Yui

建築歴史研究室

本計画は、多様化しているファッションを建築に反映させることで、衣服をまとう人間とそれを取り巻く生活から住宅すべてに影響させる。自分の世界を身体という小さな範囲で表現していたものを住まい全体で表現することによって、並木通りに新た

にアートのような住宅を作る計画である。また、服や布から生まれる一瞬一瞬の形を建築に表現することで新しい空間の形態を提案する。これは女の子のための新たな住みかとなる。





21. 壁に沿って ～小学校跡地の再開発～

高見 貴宏
TAKAMI Takahiro

建築歴史研究室

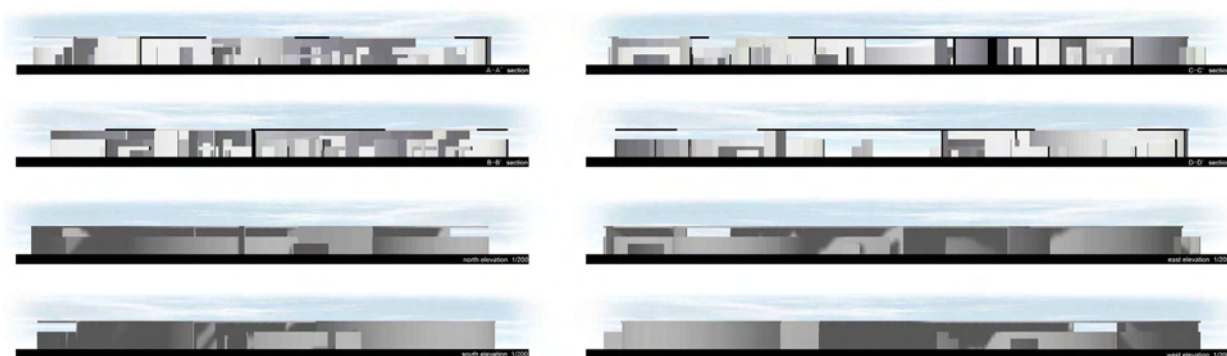
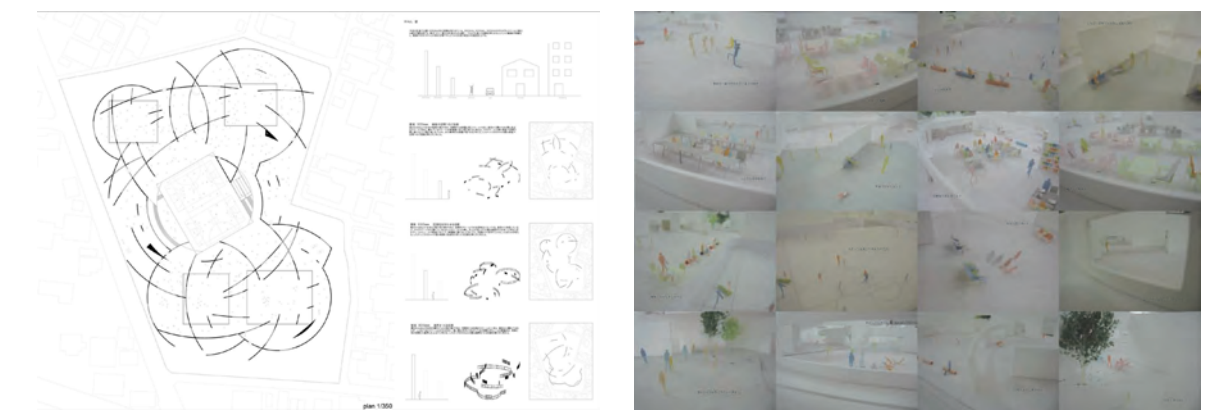
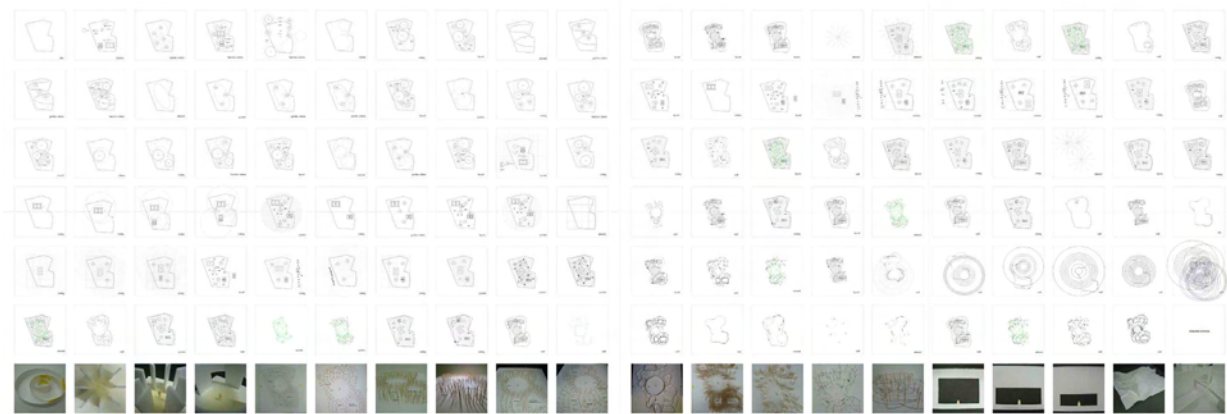
交流を生むために建築にできることは何か？建築が人の心に何をすることができるかを考えた。

本計画は、地域住民の利用と交流を目的とした複合施設である。

壁に沿って施設をめぐり、動線を交わらせ

ることで人との接点をつくる。人との接点を増やすことで交流の生まれる可能性を高めようと考えた。

建築によってつくったきっかけが、施設を利用する中で交流となり、利用者にとって豊かな時間となることを期待する。





22. 山住群築 ～郊外における森の中の住宅群～

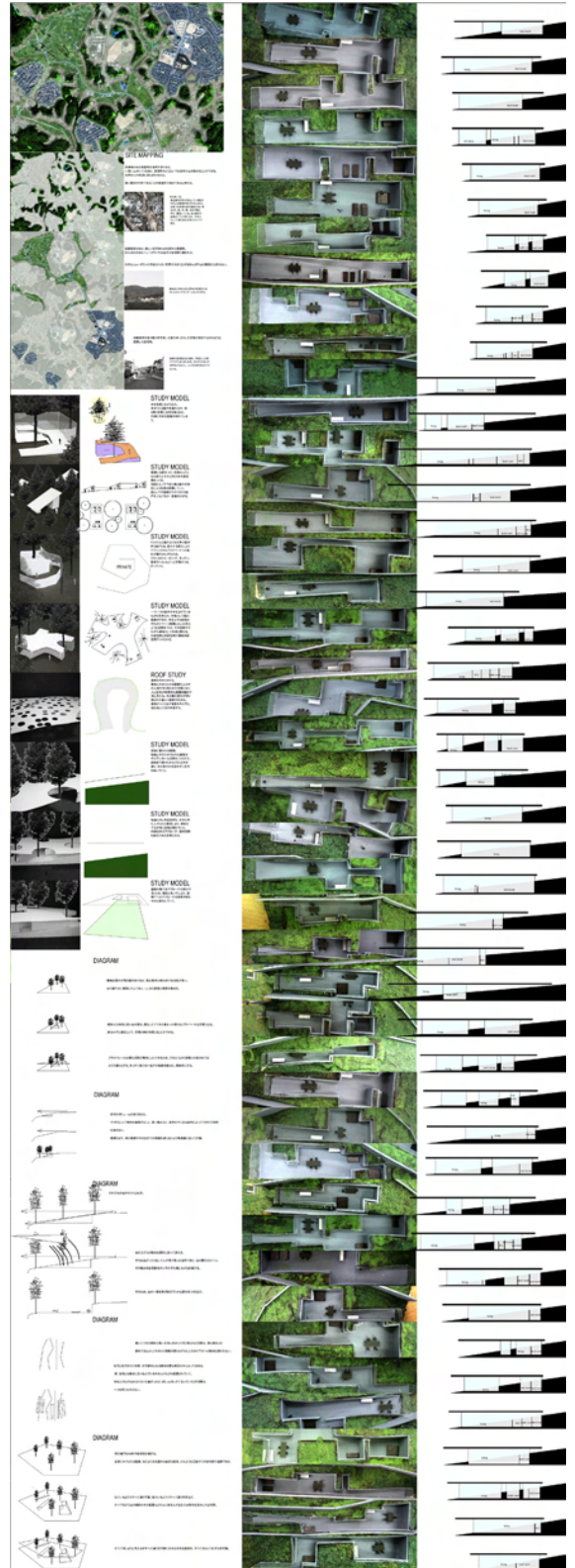
工学会賞 3席

野島 将平
NOJIMA Shohei

建築歴史研究室

敷地の森を残し、敷地の地形を活かして住宅群を計画する。現在のニュータウンは山を削り、アスファルトが敷かれ、山の風景や森の空気などを失い、またニュータウン内では自然が感じられず、また人工的すぎることなどにより、住民の土地への愛着

は薄い。傾斜した地面を掘ることでプライベートを守り、敷地の木をできる限り残すことで、自然と生活の距離を近づけた住宅群が計画できると考えた。





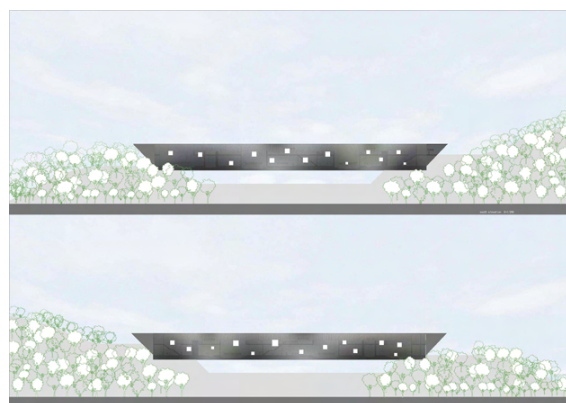
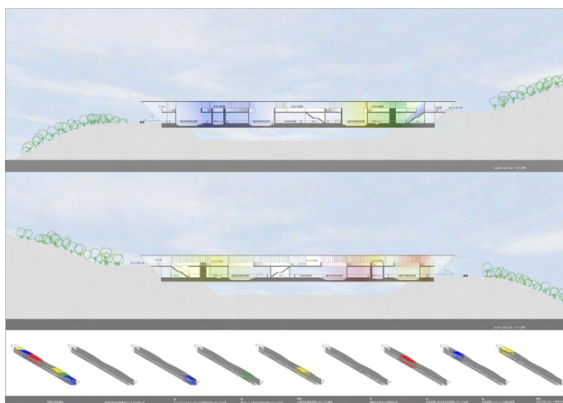
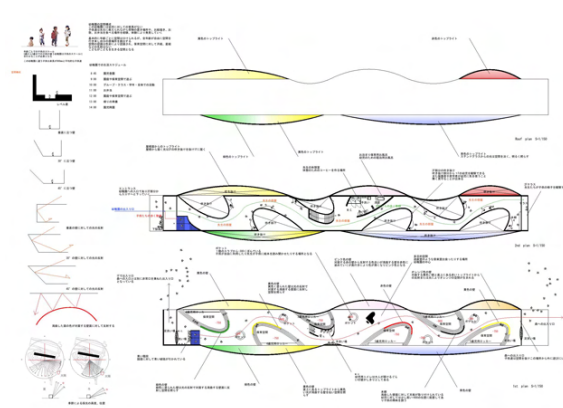
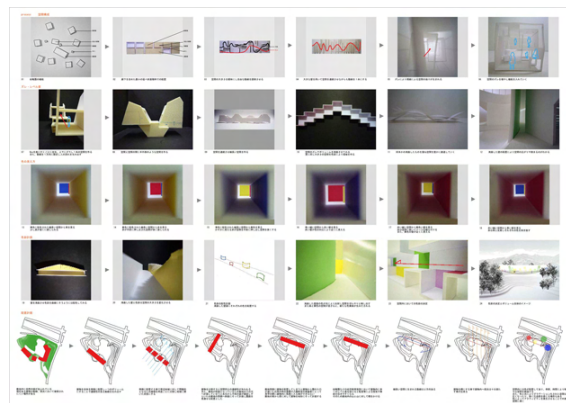
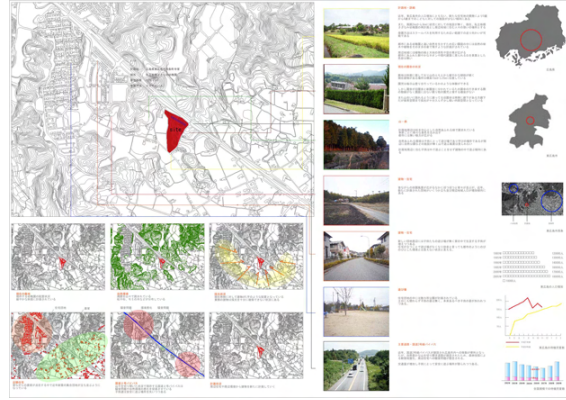
23. こどもたちの長い橋 ～色が生み出す幼稚園の提案～

森原 直樹
MORIHARA Naoki

建築歴史研究室

人は生まれた時には真っ白だとすると、生きていく過程の中で様々な体験、経験をすることで個性という色を持ち色鮮やかに成長していくが、現代社会において、個性の色は欠如しているのではないかと。本計画では、個性の色を失いつつある現代

社会の担い手である子供たちに、建築的操作による色彩を媒介とすることで、子供の個性と行動にアクティビティを促し新たな個性を育むための手助けをする提案である。





24. みちのむこう ～駅前商住空間の提案～

湯井 美江
YUI Yoshie

建築歴史研究室

近年の郊外大型商業施設の進出などにより、衰退が進んでいる商店街を活性化させる計画である。商店街の一角に、商業施設と住宅からなる複合施設を計画する。商業施設と住宅を一緒に、商店街利用者を増やす。また、通りをつなげて新しいみちをつ

くる。人の流れを変化させることで新たな活動場所が生まれ、人が集まる。店が並ぶ通りが人びとのふれあいの場所となる。みちと店舗・住宅の関係から駅前が魅力的なものとなり、駅前周辺も活性化することを期待する。





01. 消えた都市の輪郭

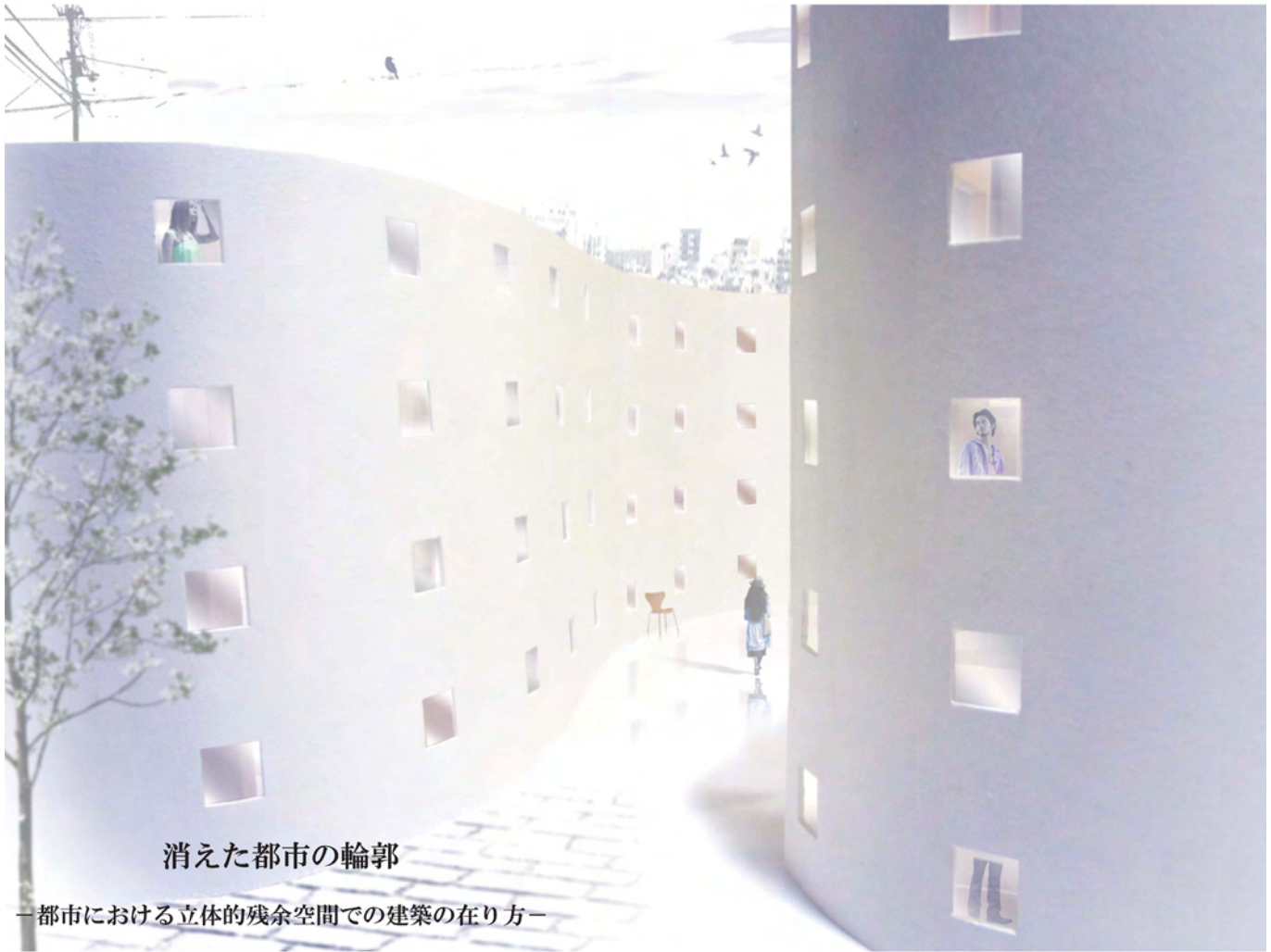
城納 剛
JONO Takeshi

建築意匠研究室

本計画は都市におけるビルの建て壊しによってできてしまった残余空間に対して、既存建築をコンバージョンすることでもともとあった建物の外部空間での生活を更新することを目的とし、都市の中に寄合所を提案するものである。

本修士設計にあたり、既存建築をコンバージョンしながら時代とともに使われて

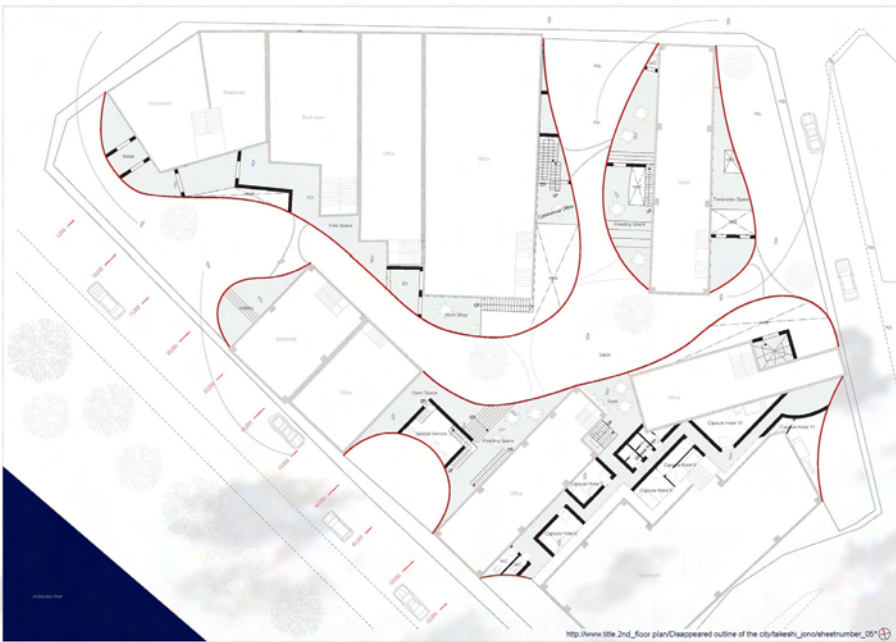
いく建築こそ知的産業の戦略の鍵となり、オフィスビル単体としてでない付加価値を生むこととなる。竣工して終わるのではなく、建物の用途やその時代に合わせて機能が変化する建築が都市の中の新たなツールとなってパフォーマンスしていく事を期待している。



消えた都市の輪郭

—都市における立体的残余空間での建築の在り方—





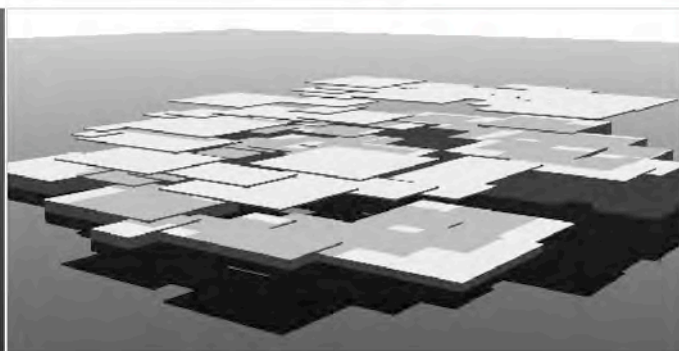
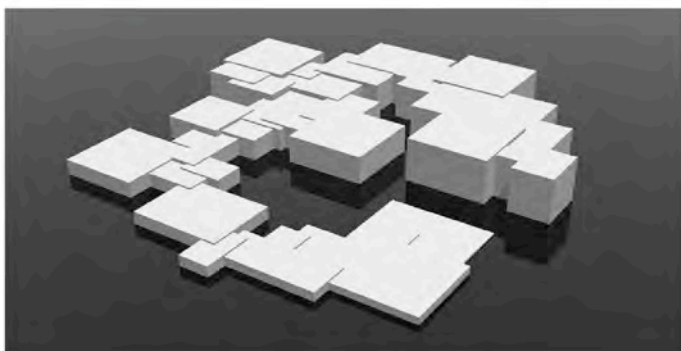
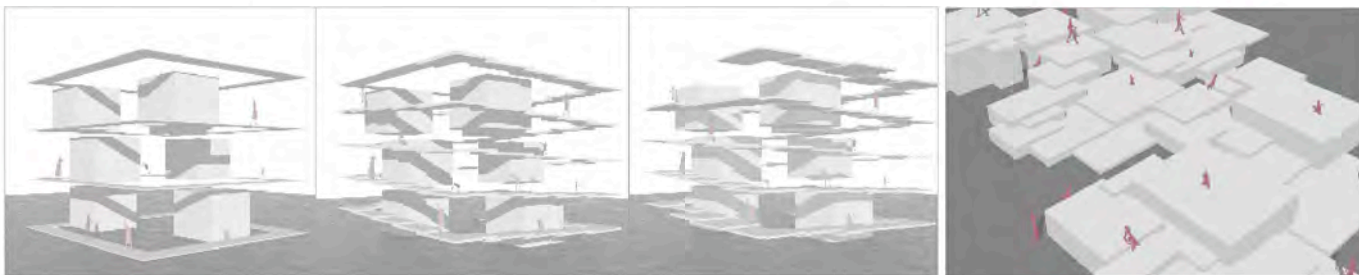
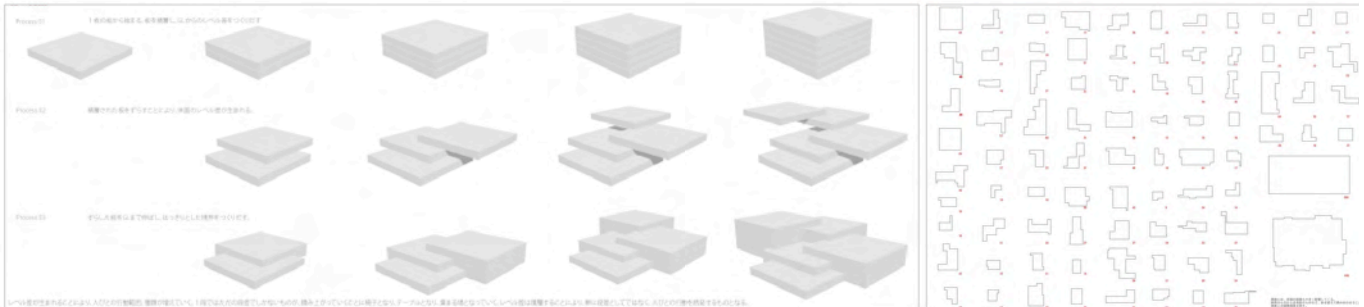


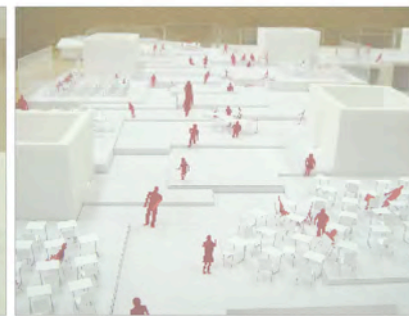
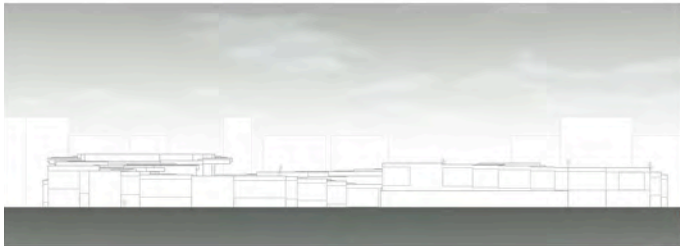
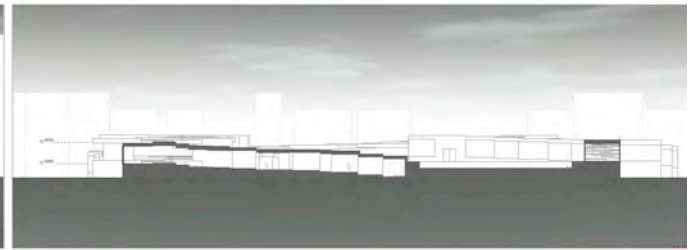
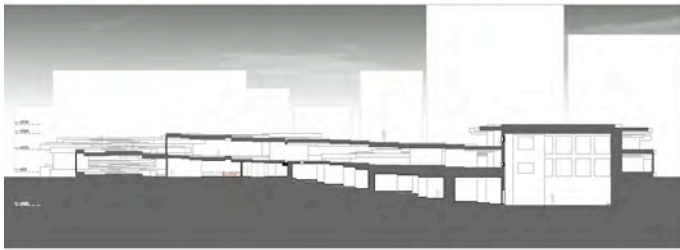
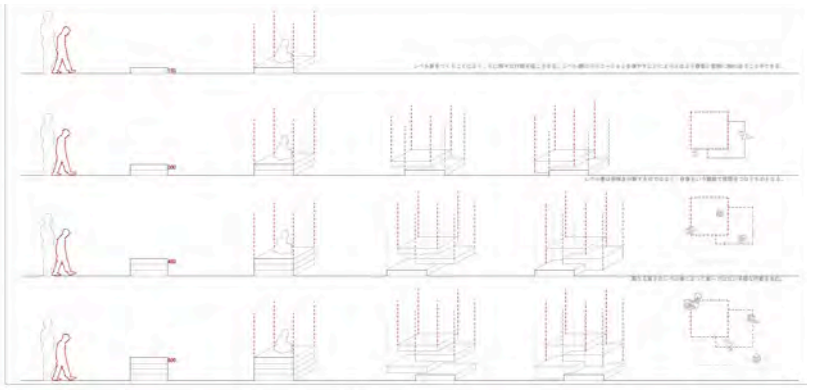
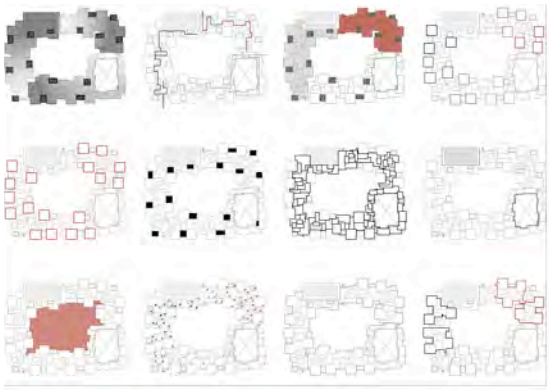
02. レベル差の積層

原田 聖
HARADA Masato
建築意匠研究室

レベル差は、多様な機能を果たし、人の動きによって変化する空間をつくりだす。建築空間の基盤となる床・壁・天井を平面形態、断面形態の操作により、空間を分つのではなく、人に様々な行動を想起させ、居場所をつくり、多様性で空間をつなぐものとして捉え、画一化されつつある小学校建築において、建築的プログラムを解

体し、レベル差の可能性を見いだすことを目的とし、様々な場面の生まれる柔軟な小学校を提案するものである。レベル差は、学校建築というビルディングタイプからの脱却の糸口となり、行動のきっかけとなるものとして、様々なアクションやシチュエーションを生み出すものとなる。





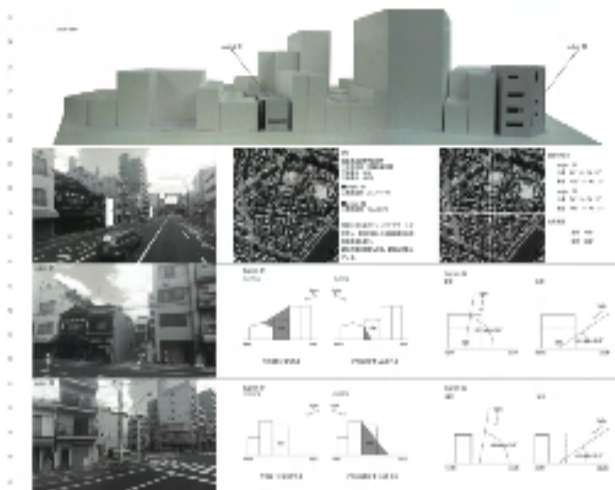


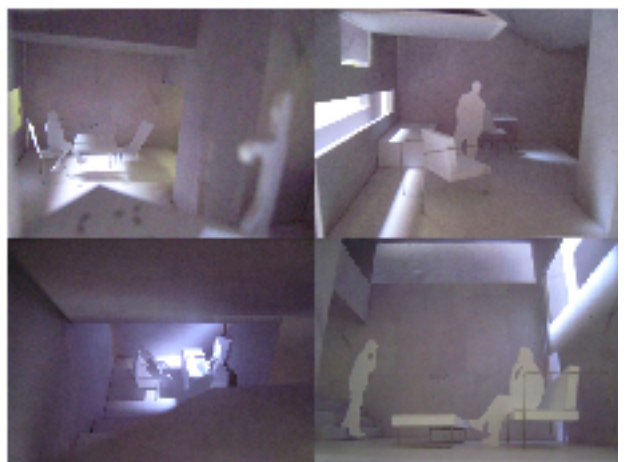
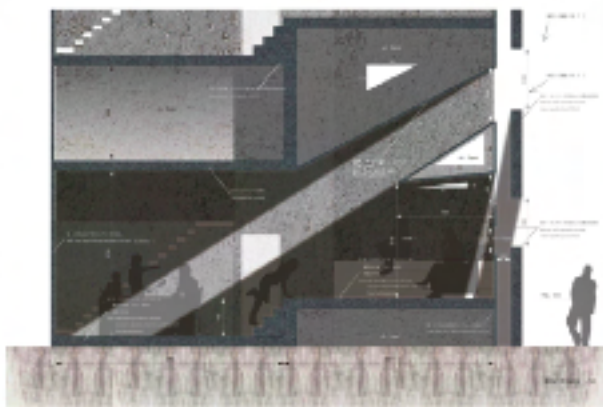
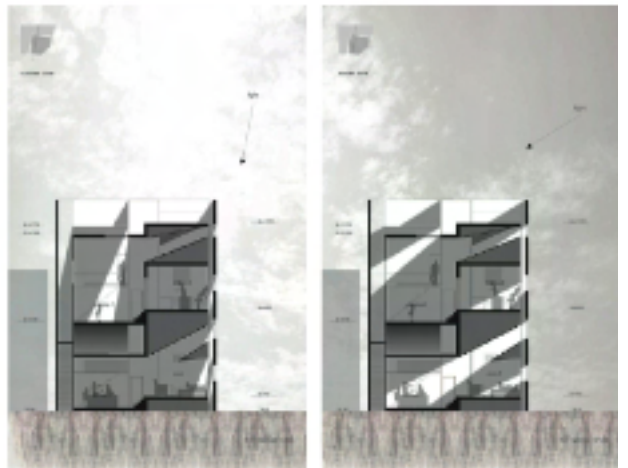
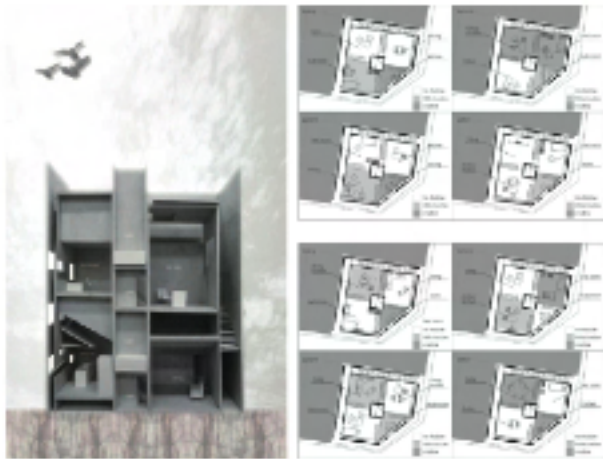
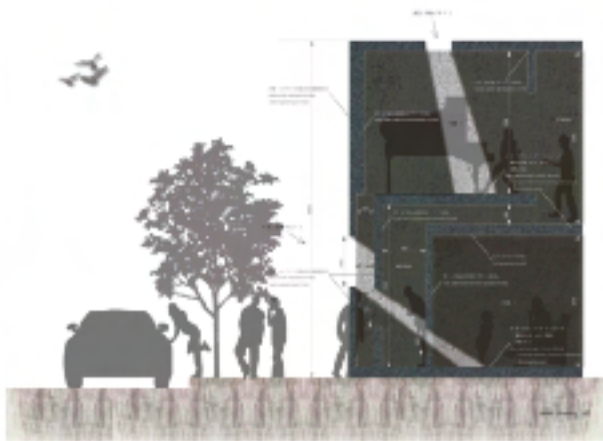
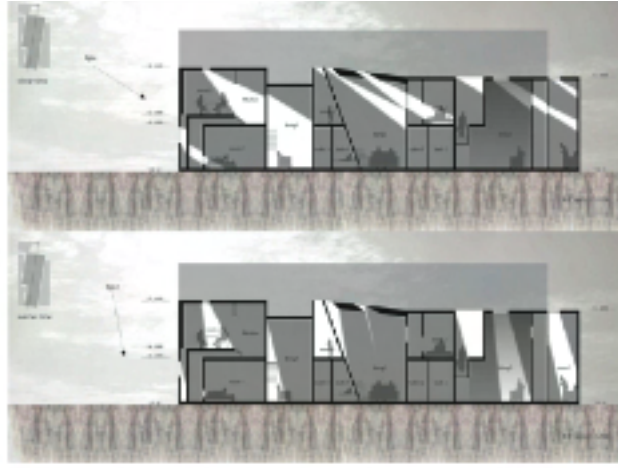
03. 呼吸する建築

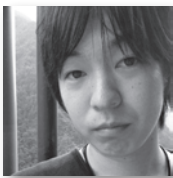
古田 靖幸
FURUTA Yasuyuki
建築意匠研究室

“日本の住宅は明るすぎる”言い換えれば日本の住宅は快適であるということだ。しかしながら、これは決していい事ばかりではない。年々の著しい技術の発展により、私たちは何の違和感なく快適に生活を送ることができている。これは、外部空間・外部環境からの影響を極力遮断し、人間の都合の良い状態に保っているからである。

そこで、本計画では建築において空間把握を左右する「光」に焦点を絞り、光が作り出す空間が、私たちに対してどのような影響をもたらすかを考えると同時に、都市型住宅において、近年社会問題となっている環境問題をいかに低減させるかを考察し、新たなサステナブル建築のプロトタイプを提案する。







04. 密接群集

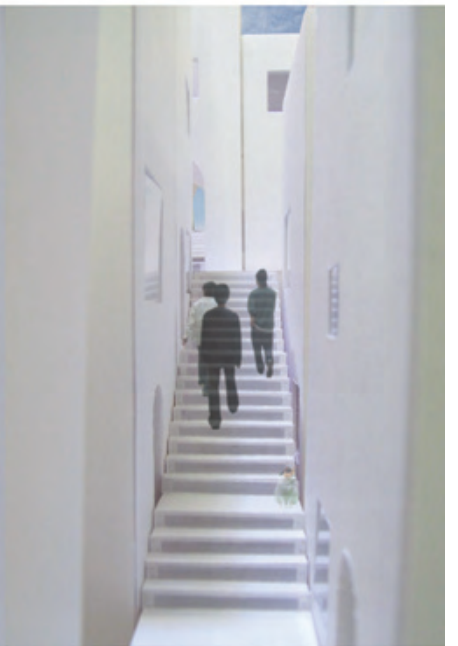
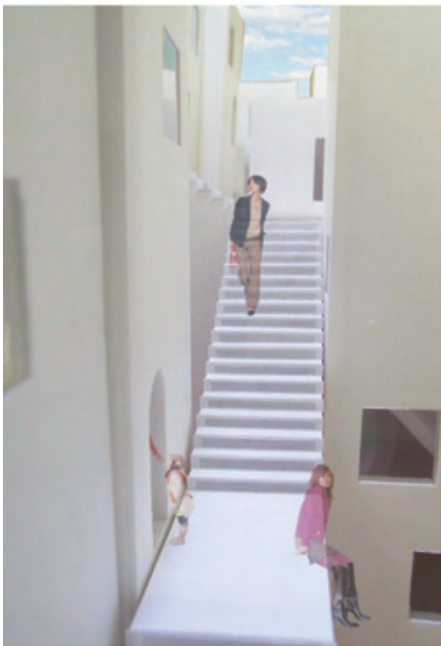
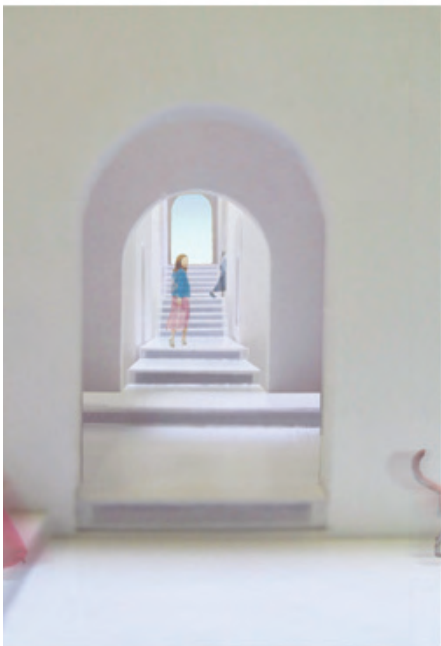
柳川 雄太
YANAGAWA Yuta

建築意匠研究室

現代の住環境において、人は平面的に暮らしていると考える。現代の住宅構成であり、集合住宅などにおけるプランニングに現れていると考える。人の住み易さを考えるゆえの結果だが、住み易さを考えるゆえに人に与える影響は大きい。人の住み易さを考えることはもちろん重要なことだが、まず人、それ自体を考える必要があるの

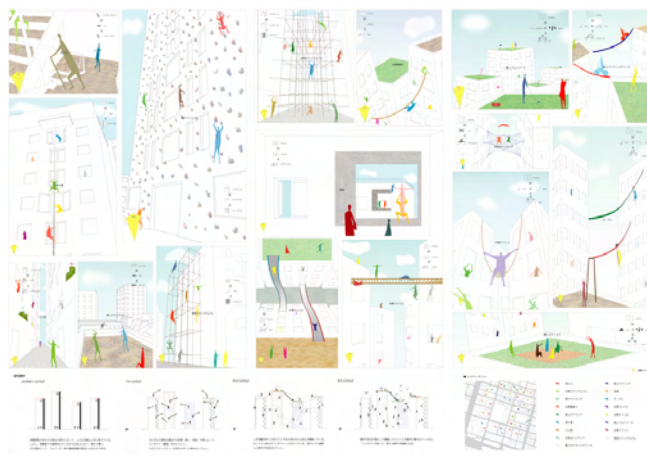
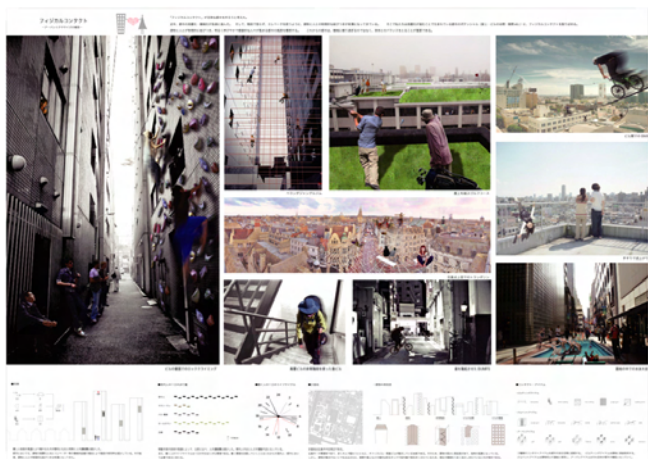
ではないかと考える。本計画は東京都新宿区にある神楽坂三丁目を計画地とし、現代の集合住宅に見られる標準化されたつづつあるプランを問い直すとともに高密度化された都市に対してさらに高密度な計画をし、333塔からなる集合住宅を提案し、新たな都市居住形態の可能性を提案する。





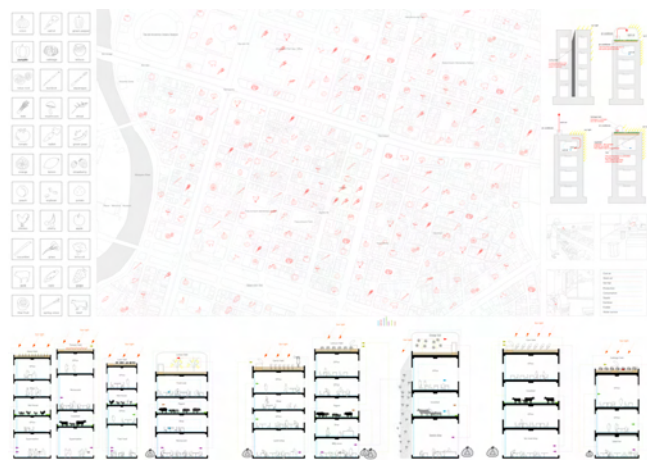
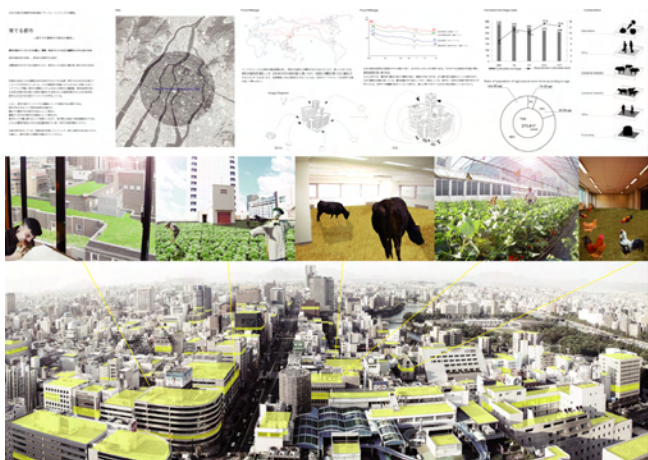
2009 年度 日本建築学会設計競技 課題「アーバン・フィジックスの構想」 支部入選

タイトル：フィジカルコンタクト-アーバンエクササイズの構想 作者：古田靖幸 (M2), 三浦亮 (M2), 三木康嵩 (M2)



2009 年度 日本建築学会設計競技 課題「アーバン・フィジックスの構想」 支部入選

タイトル：育てる都市-都市での農業の可能性の構想 作者：平川紘司 (M1), 山口和紀 (M1), 安田浩子 (M1)



2009 年度 日本建築学会設計競技 課題「アーバン・フィジックスの構想」 支部入選

タイトル：スキマの商店街-スキマから生まれる都市のつながり 作者：小谷至己 (4年), 湯井美江 (4年), 原田大輔 (研究生)





第6回 三井住空間デザインコンペ
 課題：夫婦とともに成長する住まい 佳作
 タイトル：卓 (たく)
 作者：山口和紀, 増田晋

卓

CONCEPT
 夫婦両者の嗜好はコミュニケーションである。コミュニケーションの場を創ることを目的とする。住み手は新しい環境で生活は共に進んでいく。そのため二人の時間を大切にしたい。ゆえに多くは子供を想定している。共働きという状況の中、二人が家にいる時の時間を積極的に築いていくことで夫婦の貴重な時間を最大限に活用することができる。

空間をどう分けるか、全ての空間に収める大きな家具を設置した。既設の上では、食事、アウトラック、読書の目的、自分だけの必要な機能を仕入れが可能な住宅。その目的は明確で行われるのではなく、夫婦の大きさに沿ってそれぞれ異なる目的に展開されよう。

夫婦の時間を合わせて過ごす時間を創り上げる。

00870

第16回 空間デザインコンペティション 提案部門
 課題：ガラス質のポケットパーク 佳作
 タイトル：tanpopo block-都市に咲く黄色い花畑
 作者：城納剛 (M2), 胡麻田悟史 (08年度修了生)

tanpopo block
 -都市に咲く黄色い花畑-

□ concept
 都市に咲く花畑。都市空間に緑を創るための提案である。

■ 趣旨
 都市空間に緑を創るための提案である。都市空間に緑を創るための提案である。都市空間に緑を創るための提案である。

□ section

□ perspective

2009 年度 近畿大学工学部建築学科作品集

平成 22 年 (2010 年)6 月 第一刷

発行 近畿大学工学部建築学科

〒 739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺 1

tel 082-434-7000 fax 082-434-7011

<http://www.archi.hiro.kindai.ac.jp/index.html>

編集 近畿大学工学部建築学科

印刷・製本 三原プリント株式会社

本書の全部または一部の複写・複製等を禁じます。

Copyright (C) Kinki University, All Rights Reserved, 2010